

フランス

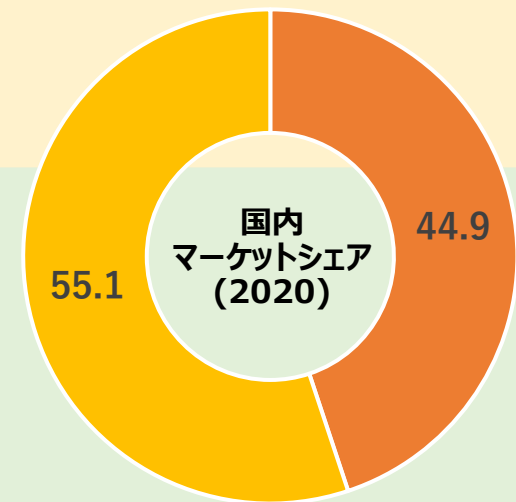


映画産業

- ・国内興行収入は欧州1位（全世界第4位）の規模を誇る
- ・国際共同製作協定数は58カ国で世界最多
- ・映画製作本数に占める国際共同製作の割合が4割程度を占める
仏語圏との共同制作が中心

国内市場

- ・国内映画の占める割合は3割強(2020年は約45%)
- ・興行収入の上位はハリウッド映画が占める
- ・国内作品で上位にランキングするのは実写コメディ作品
- ・国産アニメの需要は低く、主にディズニーを中心としたハリウッド映画がメイン



■ 国産映画 ■ その他

市場データ (2020年)

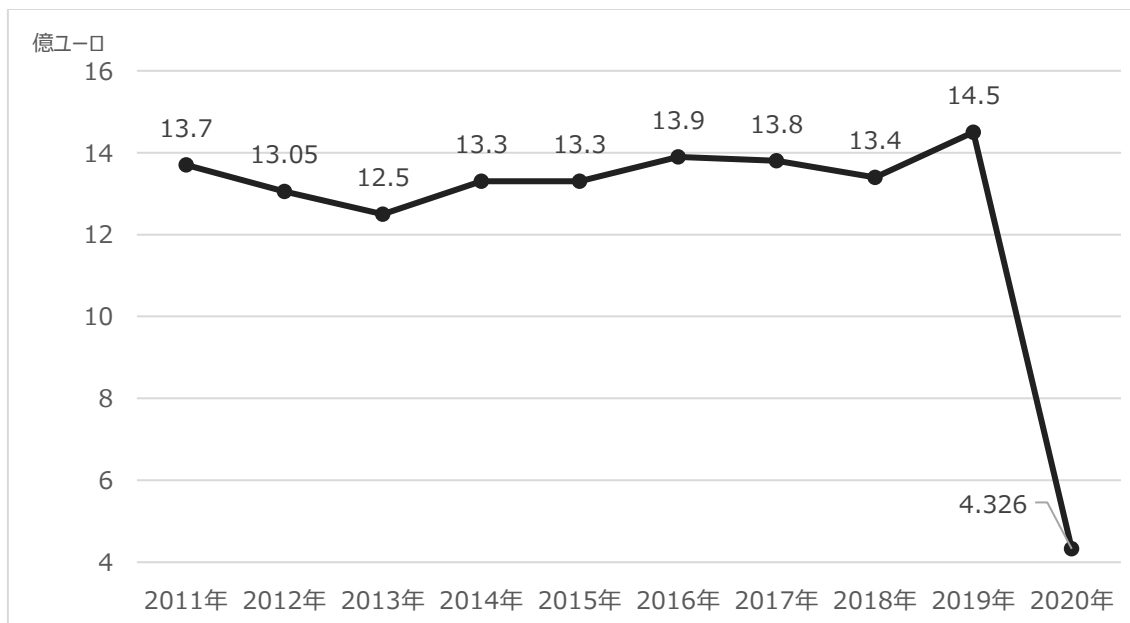
- ・国内興行収入: 4.33億ユーロ (2019年: 14.5億ユーロ)
 - ・国内の劇場動員数: 0.651億人 (2019年: 2.13億人)
 - ・国内のスクリーン数: 6127 (2019年: 6114)
 - ・平均チケット価格: 6.6ユーロ (2019年: 6.8ユーロ)
 - ・一人あたりの年間平均入場回数: 1.2回 (2019年: 3.2回)
 - ・マーケットシェアにおける国産映画の割合: 44.9% (2019年: 34.8%)
 - ・映画製作本数: 239本 (2019年: 301本)
- *100%国産 = 151本、国際共同製作 = 88本

フランスの国内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020) ¹

* コロナ感染拡大の影響で 2020 年は大きく落ち込んだものの、変わらず欧州 1 位の規模である。

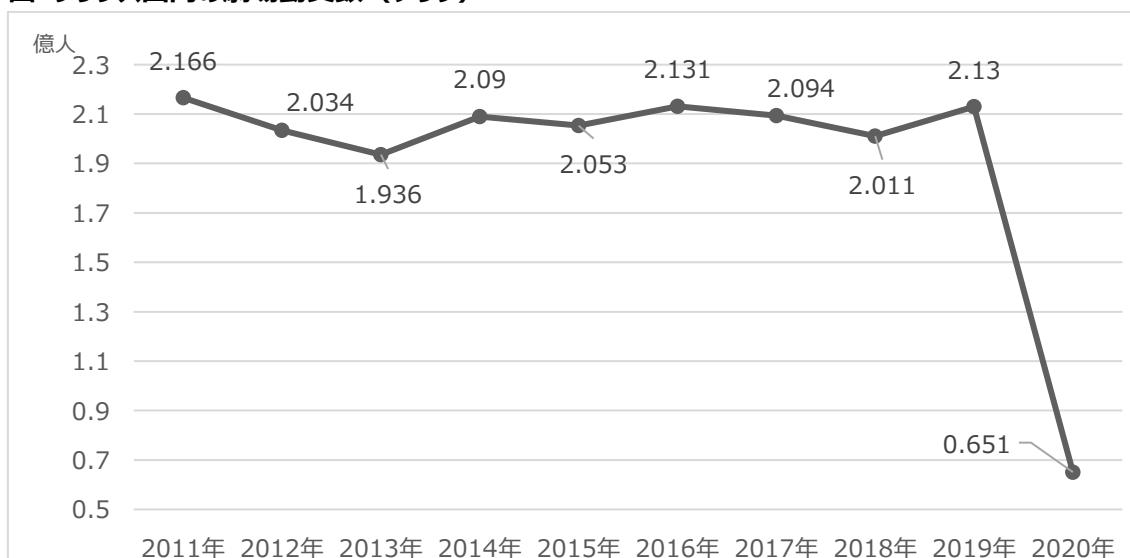
図 フランス国内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020) ²

* 概ね 2.1 億人前後を推移し、2020 年は 3 割程度に大きく減少したが欧州 1 位である。

図 フランス国内の劇場動員数 (グラフ)



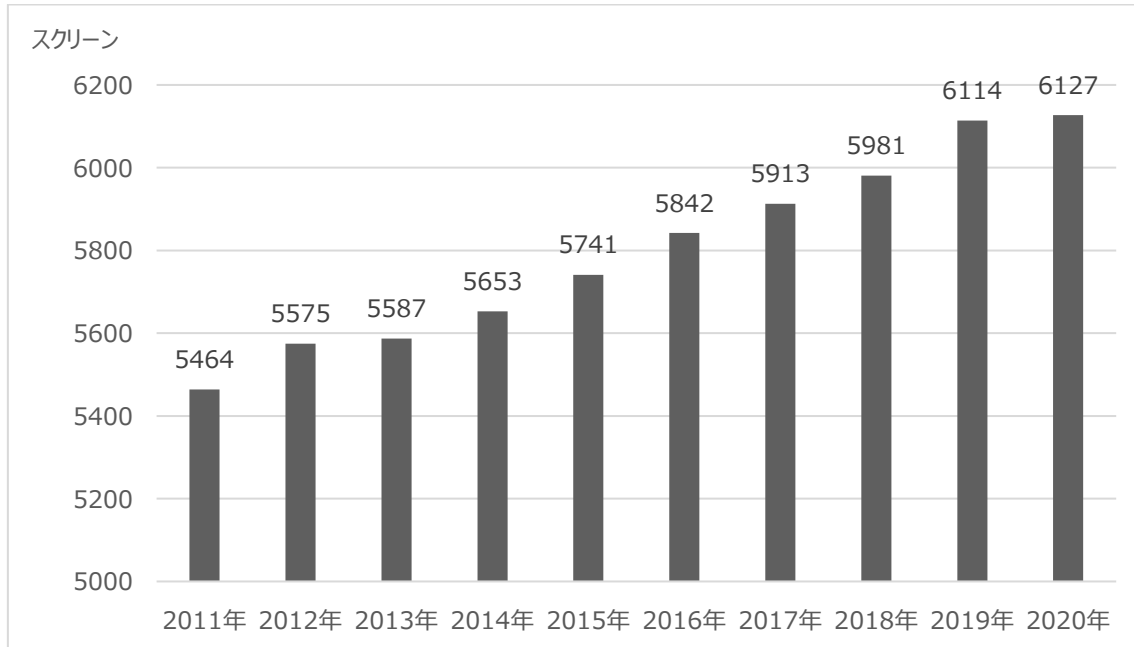
¹ European Audiovisual Observatory 発行 「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数（2011-2020）³

* スクリーン数は順調に増加しており、2019年には6000スクリーンを超え欧州1位の数である。

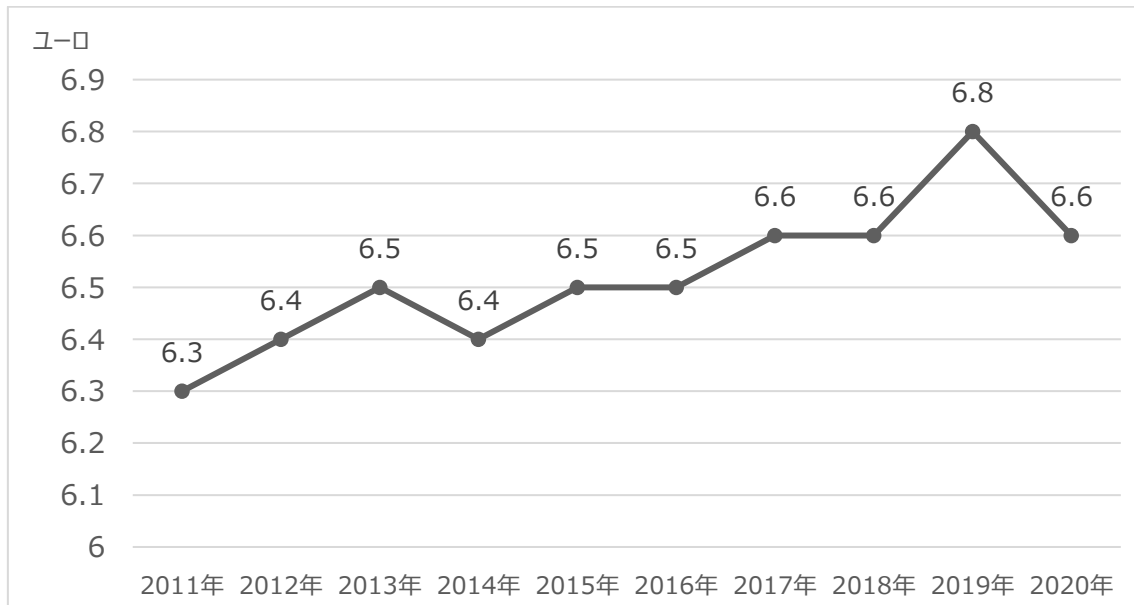
図 フランス国内のスクリーン数（グラフ）



4. 平均チケット価格（ユーロ）（2011-2020）⁴

* 平均チケット価格は年々上昇傾向。2020年は微減で6.8ユーロであった。

図 フランス国内の平均チケット価格（ユーロ）



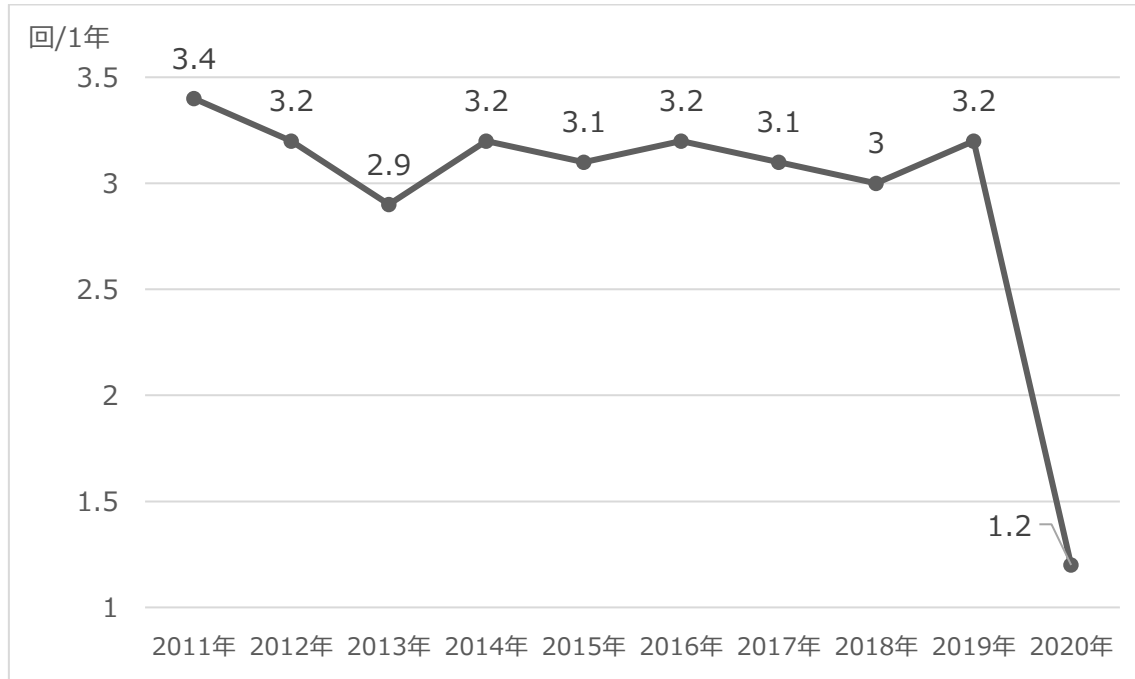
³ European Audiovisual Observatory 発行 「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 常に3回以上を推移し、欧州でトップの水準。2020年は1.2回にまで落ち込んだ。

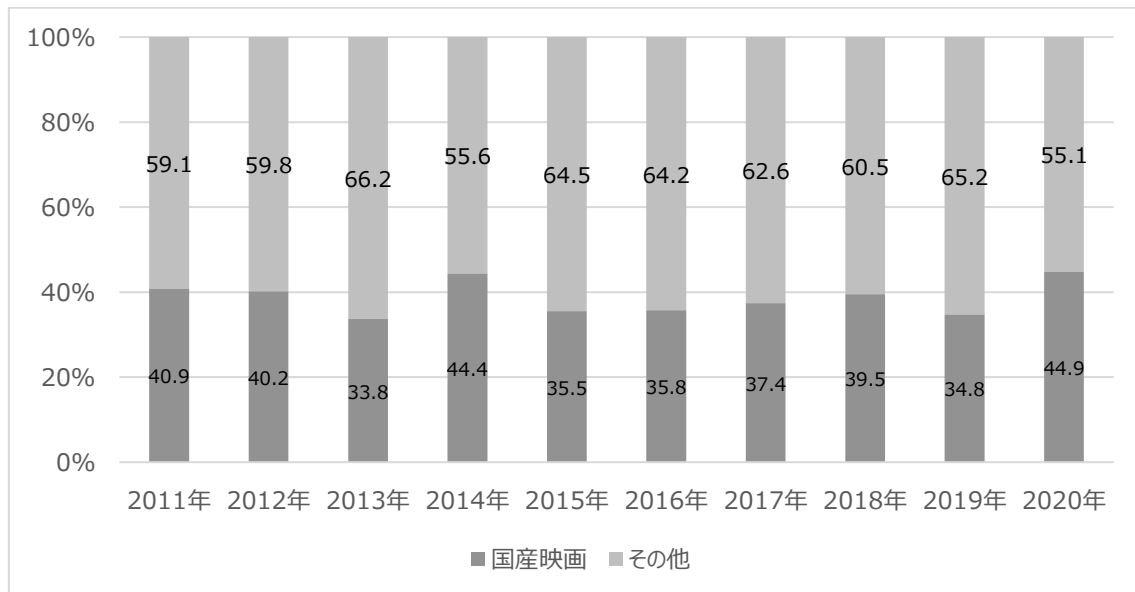
図 フランス国内の一人あたりの年間平均入場回数



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2011-2020）⁶

* 国産映画がマーケットの4割前後を占め、2020年は割合が高まった。

図 フランス国内のマーケットシェアにおける国産映画の割合



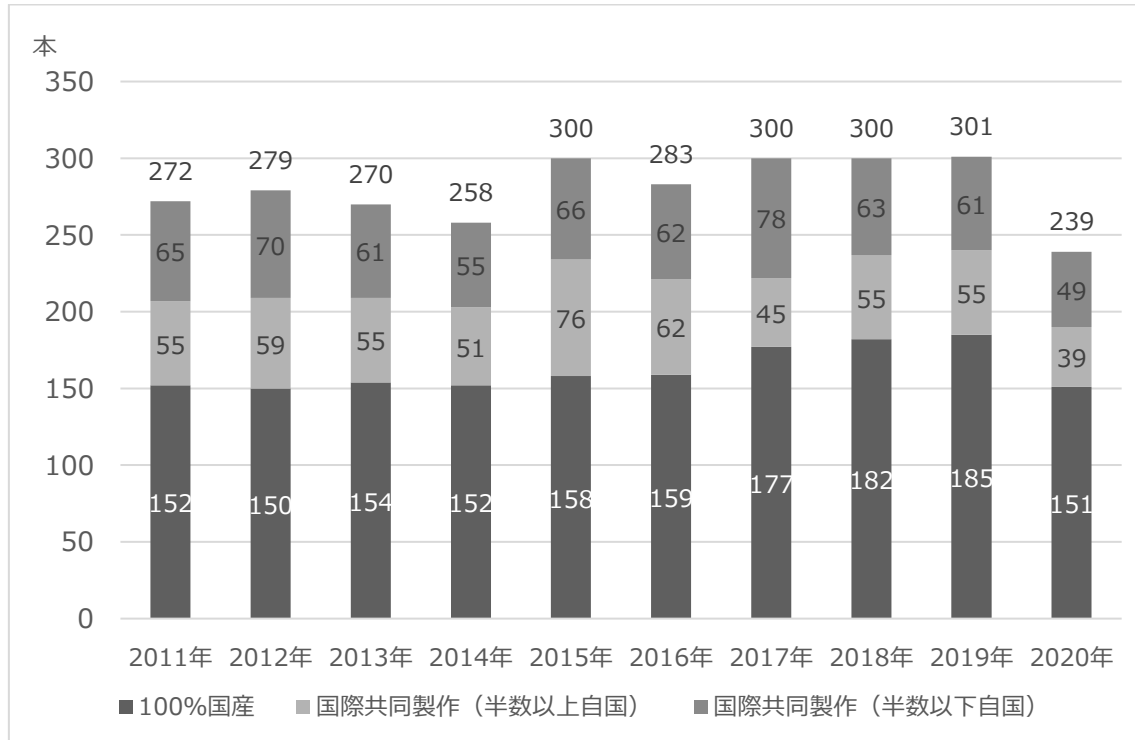
⁵ European Audiovisual Observatory 発行 「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁶ 同上

7. 映画製作本数（2011-2020）⁷

* 2020年以前までは製作本数は緩やかに増加してきた。国際共同製作の割合も4割弱と高い。

図 フランス国内の映画製作本数(グラフ)



⁷ European Audiovisual Observatory 発行 「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

イタリア

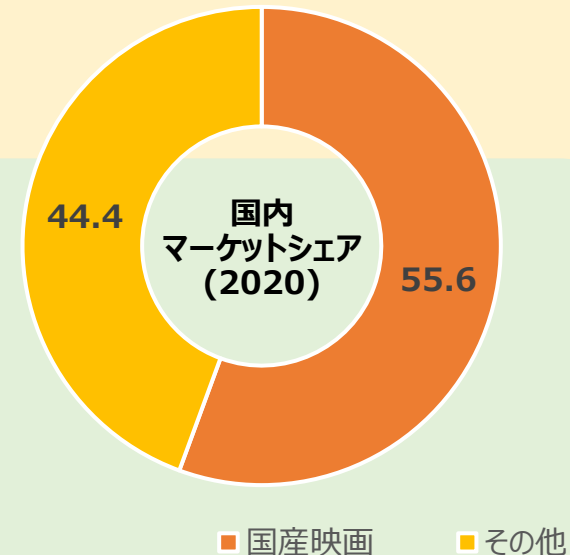


映画産業

- ・映画製作本数は020年減少に転じるも世界第6位(欧州1位) うち国際共同製作の割合は2割弱
- ・スクリーン数は欧州4位
- ・国際共同製作協定数は33カ国で世界第3位

国内市場

- ・国内映画の占める割合は2割強、2020年は5割以上に回復
- ・興行収入の上位はハリウッド映画が占める
- ・国内作品で上位にランキングするのは実写コメディ作品
- ・国産アニメの需要は低く、主にディズニーを中心としたハリウッド映画がメイン
- ・20～30年前の日本アニメブームで一定数のファンが存在



市場データ (2020年)

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| ・国内興行収入: | 1.895億ユーロ (2019年: 6.679億ユーロ) |
| ・国内の劇場動員数: | 0.303億人 (2019年: 1.044億人) |
| ・国内のスクリーン数: | 5325 (2019年: 5385) |
| ・平均チケット価格: | 6.3ユーロ (2019年: 6.4ユーロ) |
| ・一人あたりの年間平均入場回数: | 0.5回 (2019年: 1.7回) |
| ・マーケットシェアにおける国産映画の割合: | 55.6% (2019年: 21.6%) |
| ・映画製作本数: | 253本 (2019年: 325本) |

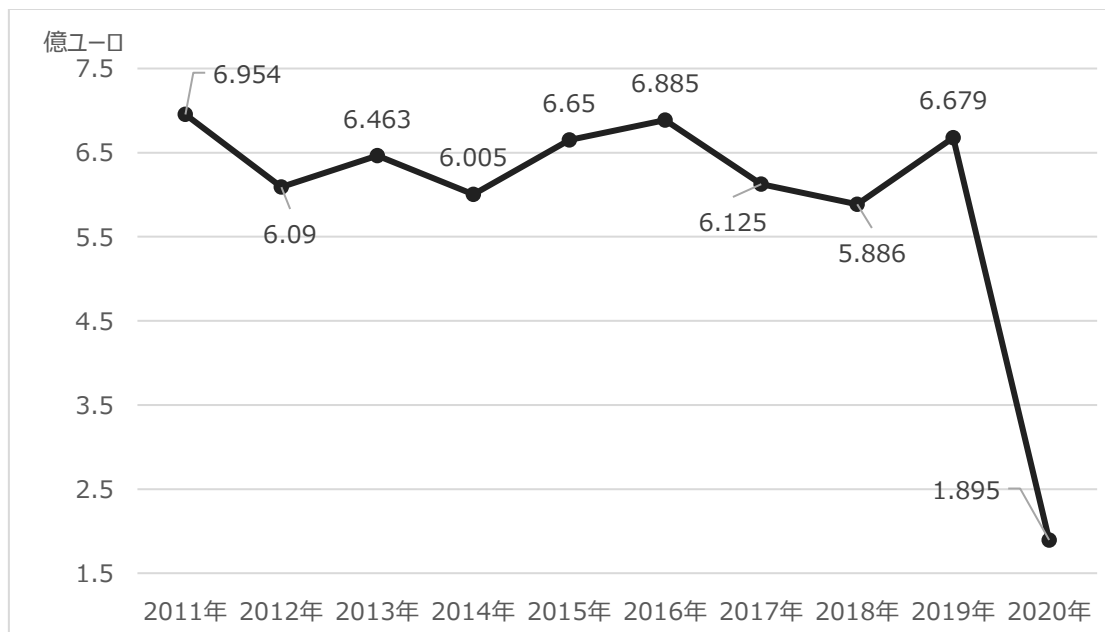
*100%国産 = 207本、国際共同製作 = 46本

イタリアの国内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020) ¹

*コロナ感染拡大前は、概ね 6.5 億ユーロ前後を推移。2020 年は前年比 3 割程度に落ち込み。

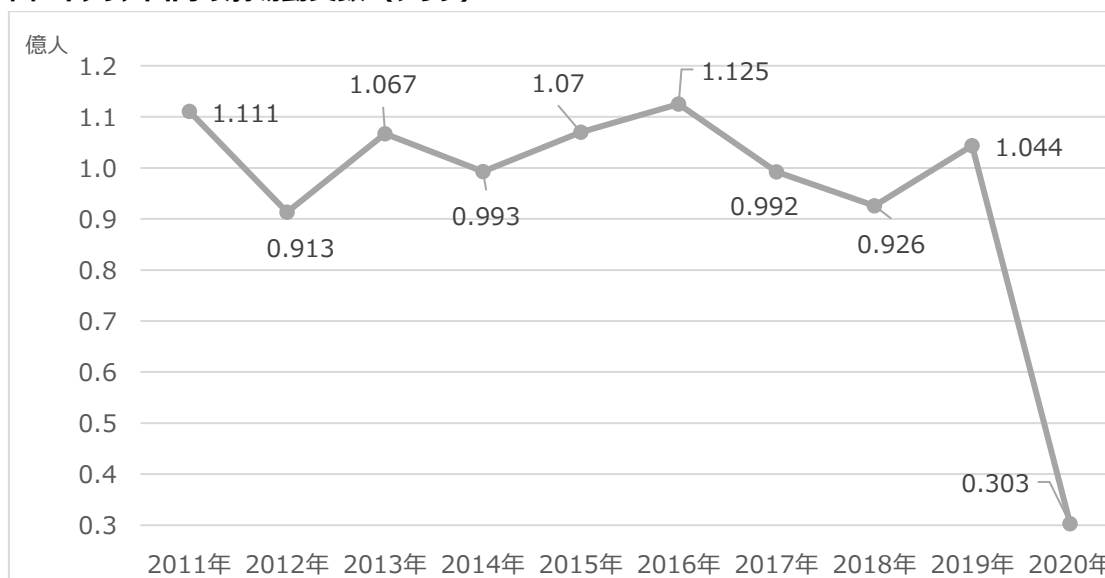
図 イタリア国内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020) ²

*動員数は 1 億人前後を推移していたが、2020 年は 3 割ほどに落ち込んだ。

図 イタリア国内の劇場動員数 (グラフ)



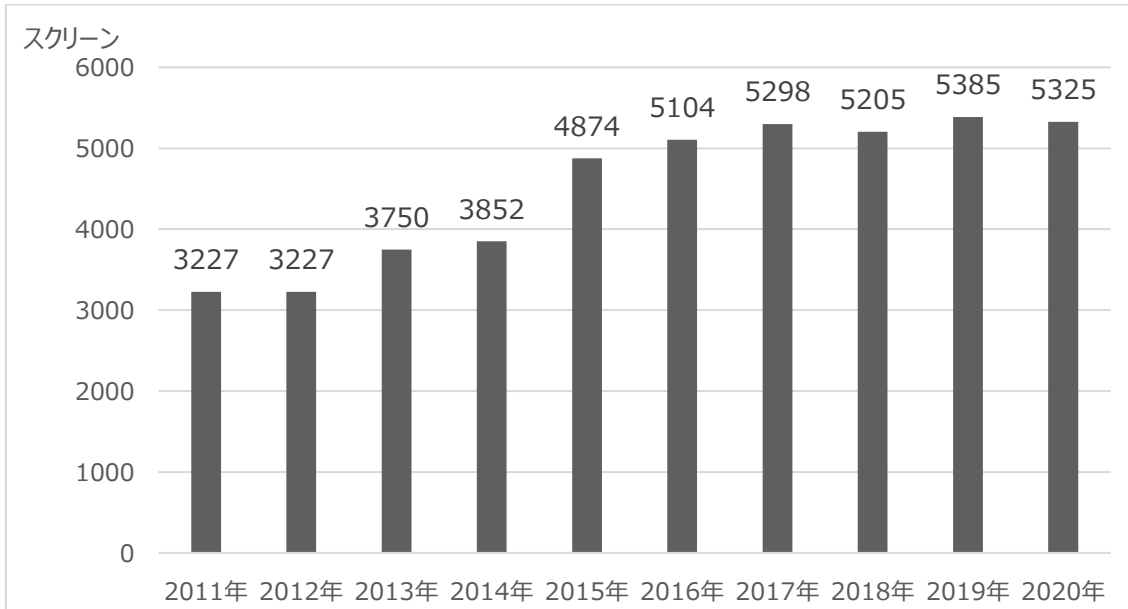
¹ European Audiovisual Observatory 発行 「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数 (2011-2020) ³

* イタリア国内のスクリーン数は堅調に伸び続け、コロナ感染拡大下でも微減に留まり欧州第2位。

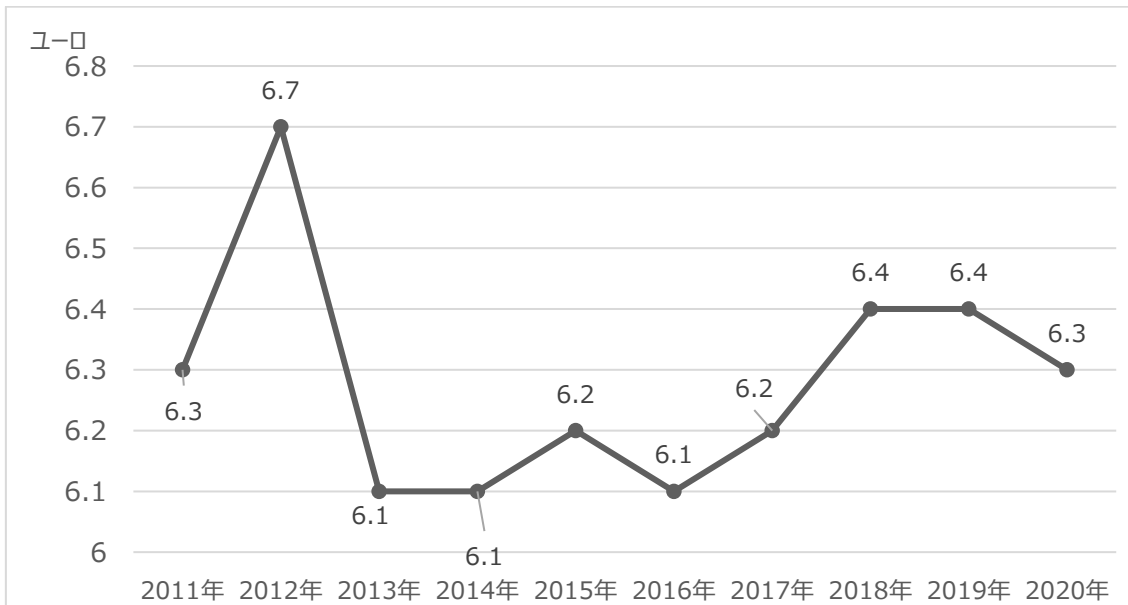
図 イタリア国内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (ユーロ) (2011-2020) ⁴

* チケット価格は右肩上がりではなく年により変動。現在は 6.3 ユーロ程度である。

図 イタリア国内の平均チケット価格 (グラフ)



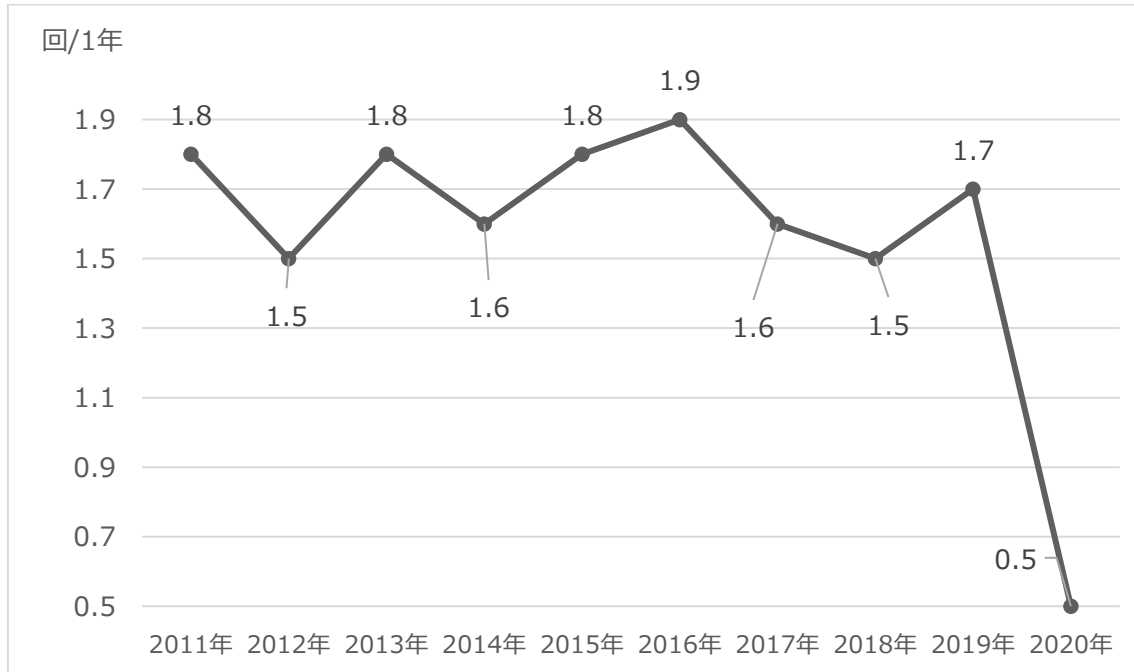
³ European Audiovisual Observatory 発行 「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成
数字に修正があったものは、最新に合わせて修正

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

*ヨーロッパ平均（2回）を下回っていたが、2020年は0.5回にまで落ち込んだ。

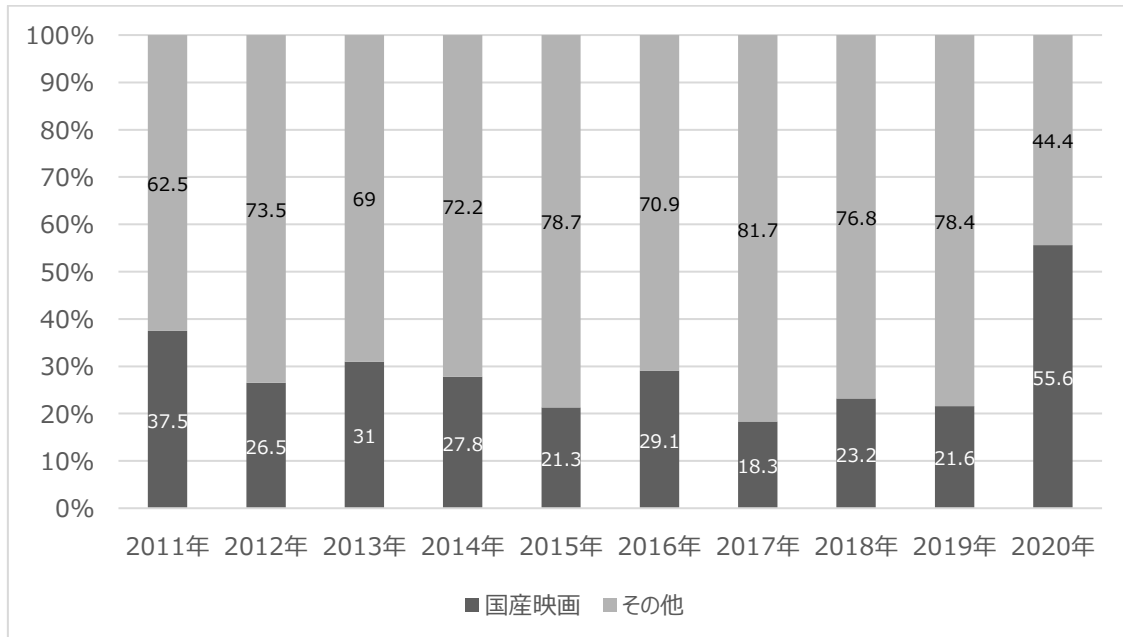
図 イタリアの一人あたりの年間平均入場回数（グラフ）



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2011-2020）⁶

*国産映画の割合は2割程度だったが、2020年はコロナ感染拡大下で5割以上に回復した。

図 イタリアのマーケットシェアにおける国産映画の割合



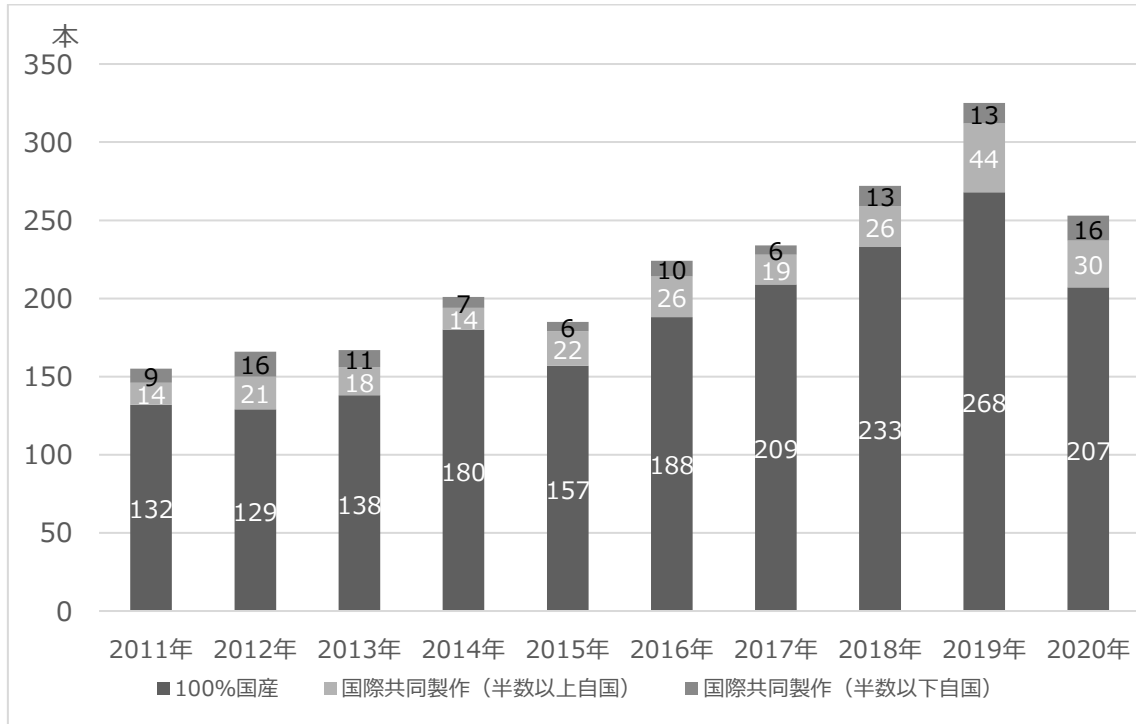
⁵ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁶ 同上

7. 映画製作本数（2011-2020）⁷

* 製作本数は 2020 年に減少したが、2019 年以前と変わらず欧州 1 位の本数は維持した。

図 イタリアの映画製作本数(グラフ)



⁷ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

イギリス

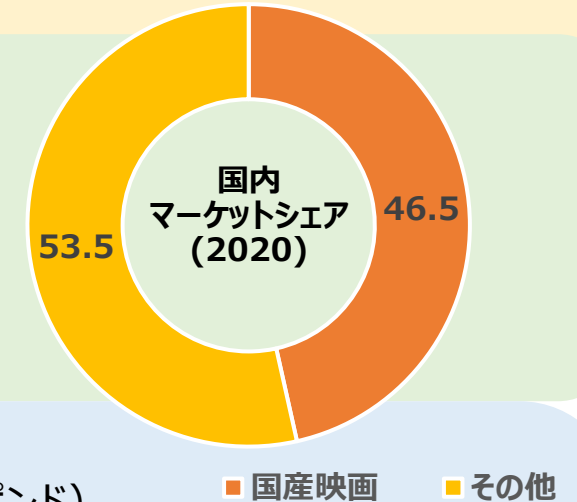


映画産業

- ・2020年は大きく縮小するも、国内興行収入は欧州2位（全世界6位）の規模は変動なし
- ・国民一人当たり年に2.6回の劇場鑑賞し、動員数は堅調に推移していた（2020年以前）

国内市場

- ・国内映画の興行収入が5割弱を占める
- (注) イギリスではハリウッド資本の作品も文化審査を通過すればイギリス映画とみなす。純粋な100%国内映画は10%強
- ・興行収入の上位はハリウッド映画が占める
 - ・ヨーロッパの中では比較的アニメの需要が高い



市場データ (2020年)

- ・国内興行収入： 3億ポンド（2019年：12.5億ポンド）
- ・国内の劇場動員数： 4400万人（2019年：1.761億人）
- ・国内のスクリーン数： データ無（2019年：4395）
- ・平均チケット価格： 7ポンド（2019年：7.1ポンド）
- ・一人あたりの年間平均入場回数： 0.7回（2019年：2.6回）
- ・マーケットシェアにおける国産映画の割合： 46.5%（2019年：47.1%）
- ・映画製作本数： 134本*（2019年：281本）

*100%国産 = 81本、国際共同製作 = 18本、アメリカの対内投資作品 = 35本

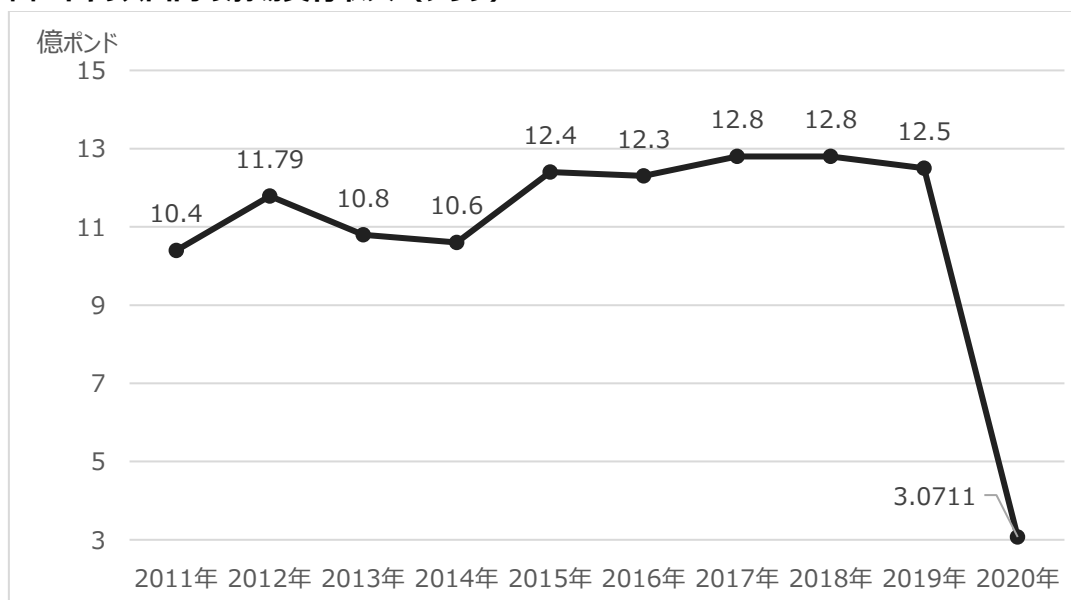
国内映画の興行収入が5割弱を占めるが、イギリスでは①文化審査を通過した国際共同製作協定を介さない国際共同製作作品と②外国からの対内投資を受けた作品をいずれも「イギリス映画」とみなしている。

イギリスの国内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020) ¹

* 興行収入は新型コロナ感染の影響で急落するも、欧州 2 位・全世界 6 位である。

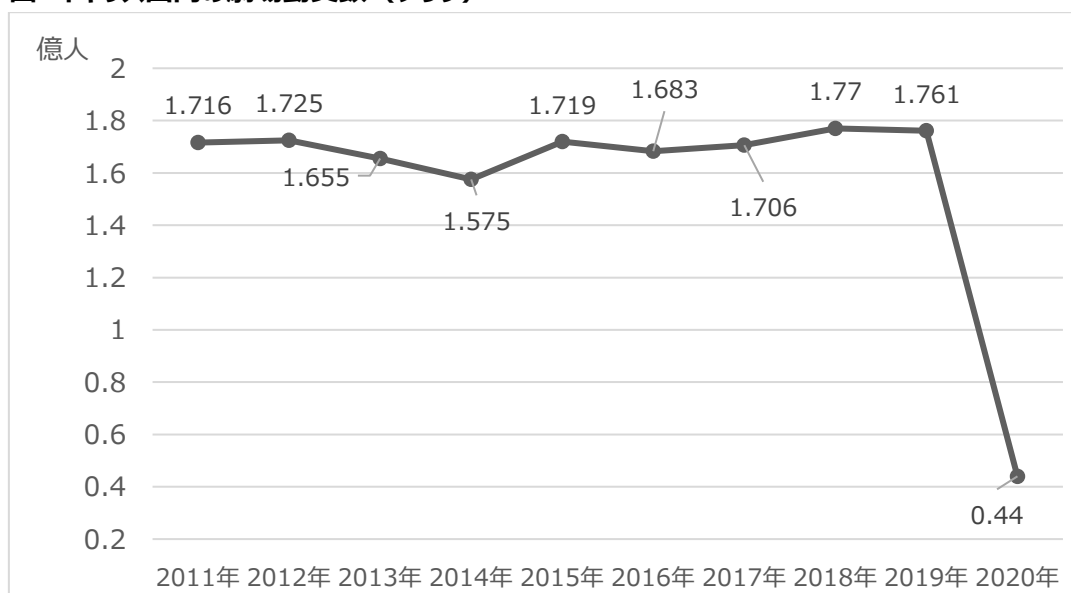
図 イギリス国内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020) ²

* 動員数は増加傾向であったが、2020年に4分の1程度に落ち込んだ。欧州では2位。

図 イギリス国内の劇場動員数 (グラフ)



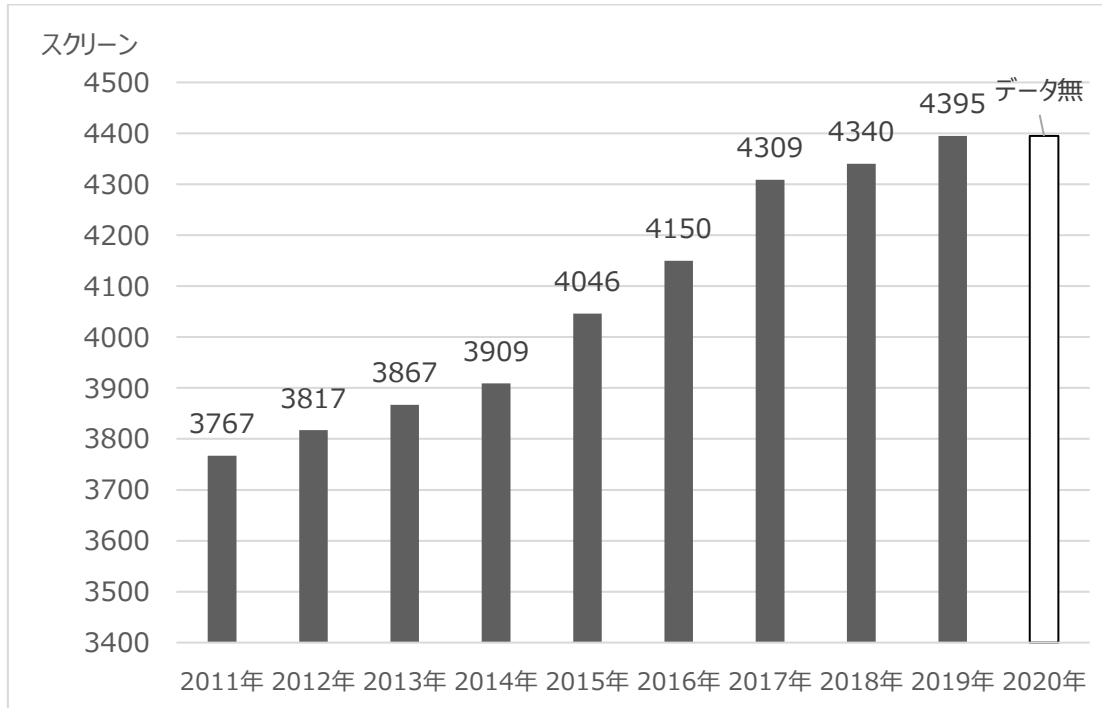
¹ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数 (2011-2020) ³

* スクリーン数は順調に増加しており、現在は 4400 スクリーン程度である。(2020 年データ無)

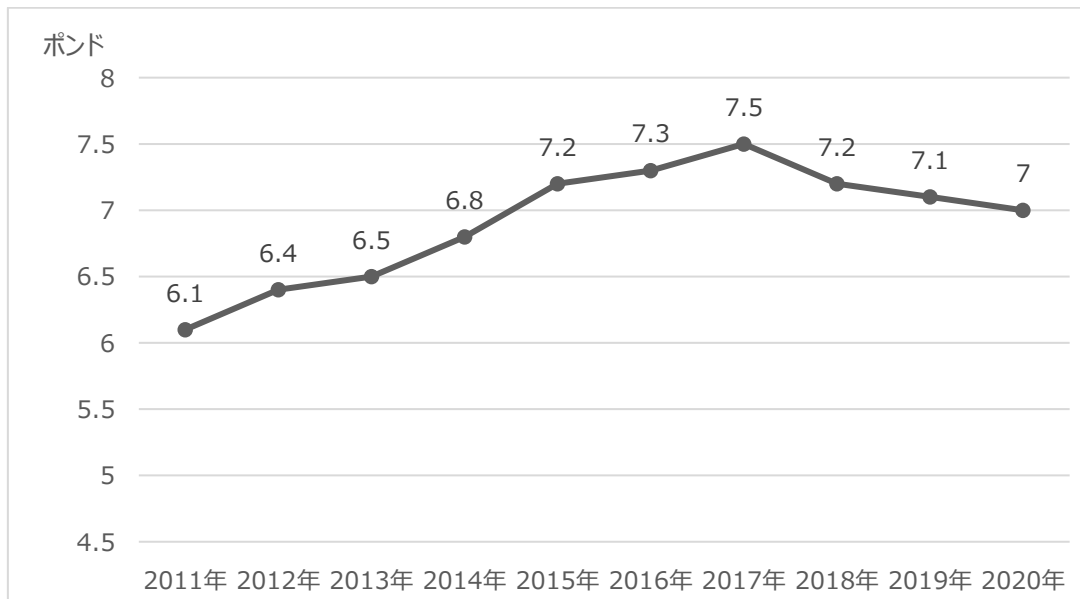
図 イギリス国内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (ポンド) (2011-2020) ⁴

* チケット価格はここ数年低下傾向にあるが、現在 7 ポンド程度である。

図 イギリス国内の平均チケット価格 (ポンド)



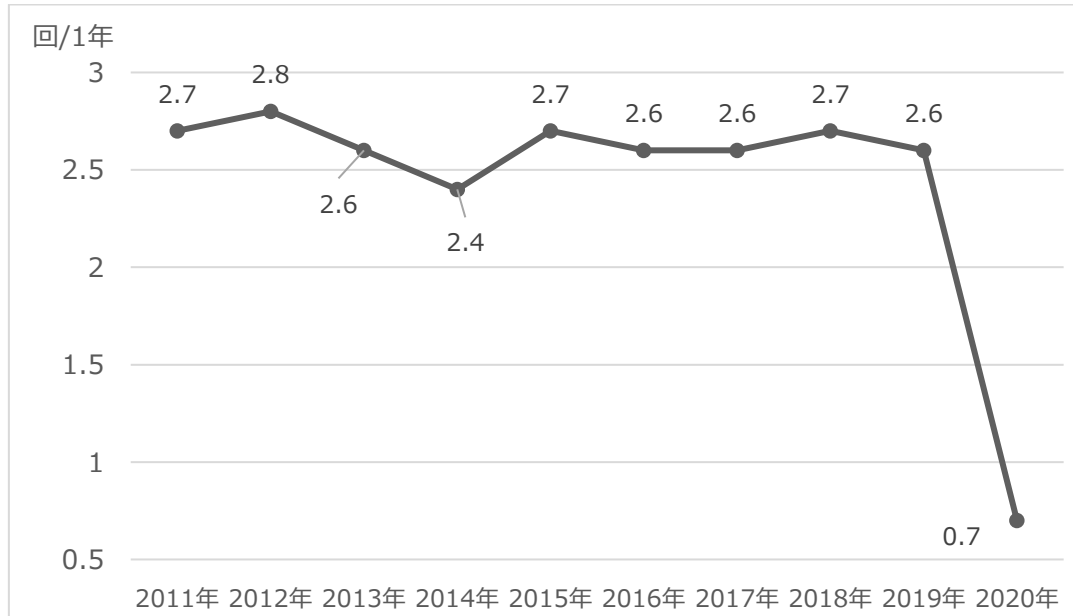
³ データ参照 European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 年により変動はあるが、2020年を除き、欧州平均（2019年は2回）を大きく上回っている。

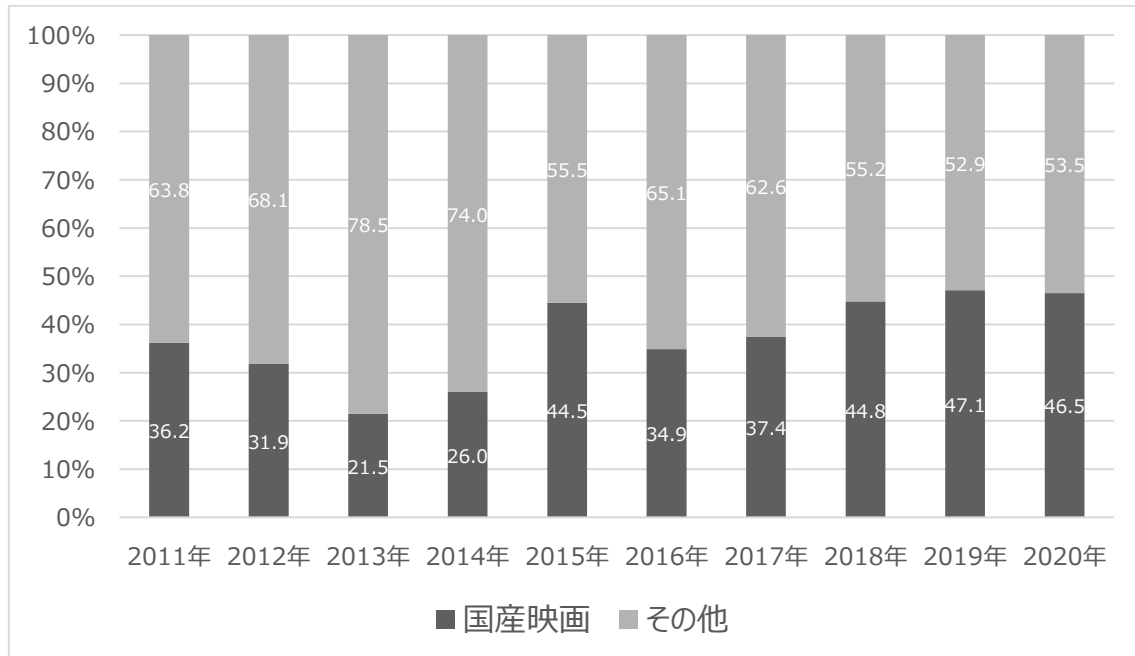
図 イギリス国内の一人あたりの年間平均入場回数



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2011-2020）⁶

* 欧州の他国と比べ割合が高いが、基準が異なるため、実質は10%程度である。⁷

図 イギリスのマーケットシェアにおける国産映画の割合



⁵ データ参照 European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

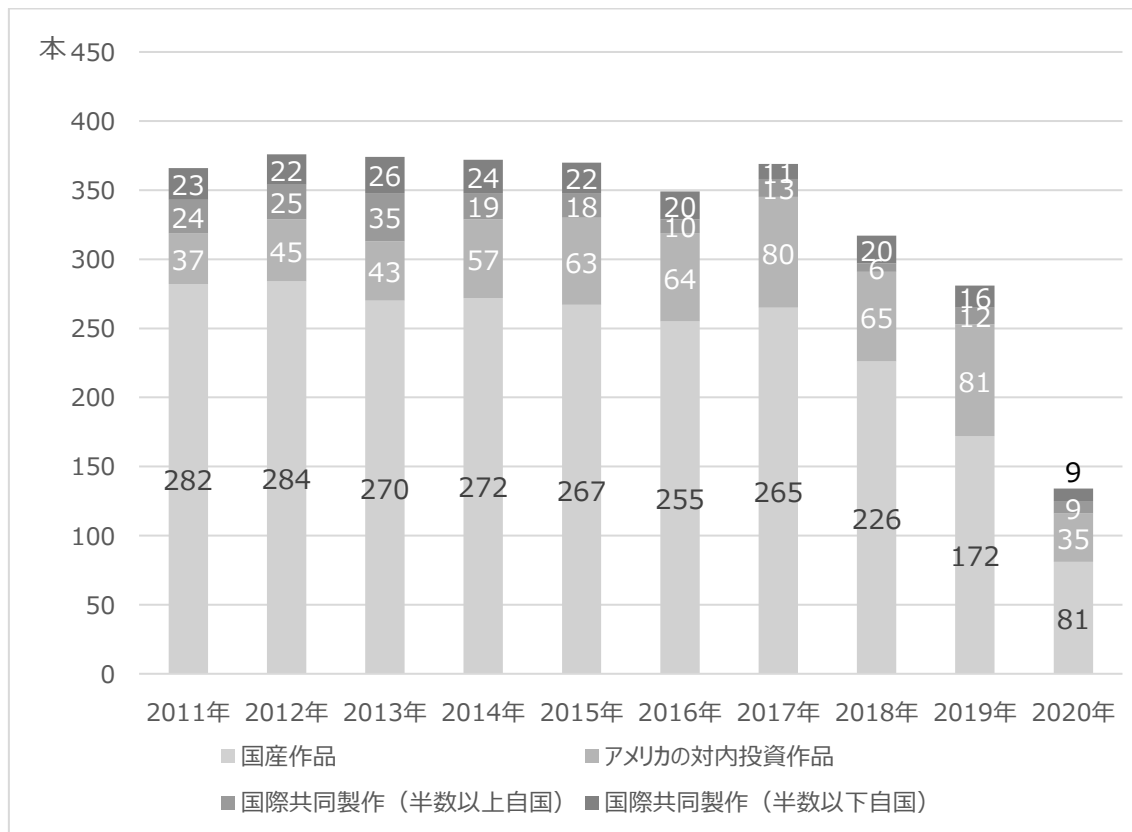
⁶ 同上

⁷ 詳しくは次頁「映画製作本数」の注釈または後述の「国際共同製作映画認定システム」参照

7. 映画製作本数（2011-2020）⁸

* 映画製作本数は急激に減少しているものの欧州 5 位。米国からの対内投資の割合も高まっている。

図 イギリスの映画製作本数



【注釈】

他国との比較の際注意すべき点は、イギリスの「国産作品」の定義である。イギリスでは①文化審査を通過した国際共同製作協定を介さない国際共同製作作品と②外国からの対内投資を受けた作品をいずれも「イギリス映画」とみなしていることから、実質はアメリカの関与する作品が割合として高い。前述の「マーケットシェアにおける国産映画の割合」が高いことも同様の理由である。

⁸ データ参照 BFI Statistical Yearbook 2021 年版を元に作成 <https://www.bfi.org.uk/industry-data-insights/statistical-yearbook>

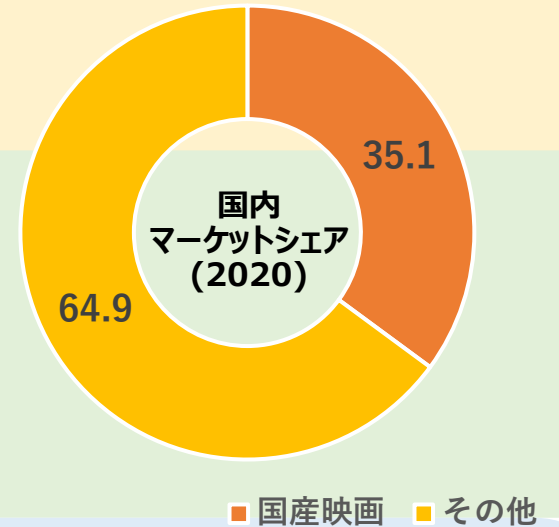


映画産業

- ・国内興行収入は欧州3位（全世界7位）の規模を誇る
- ・映画製作本数は世界第9位、国際共同製作の割合は3割程度

国内市場

- ・自国映画の興行収入は2割程度（2020年は例外）
- ・興行収入の上位はハリウッド映画が占める
- ・興行収入、動員数共に減少傾向、公開作品数は増加



市場データ (2020年)

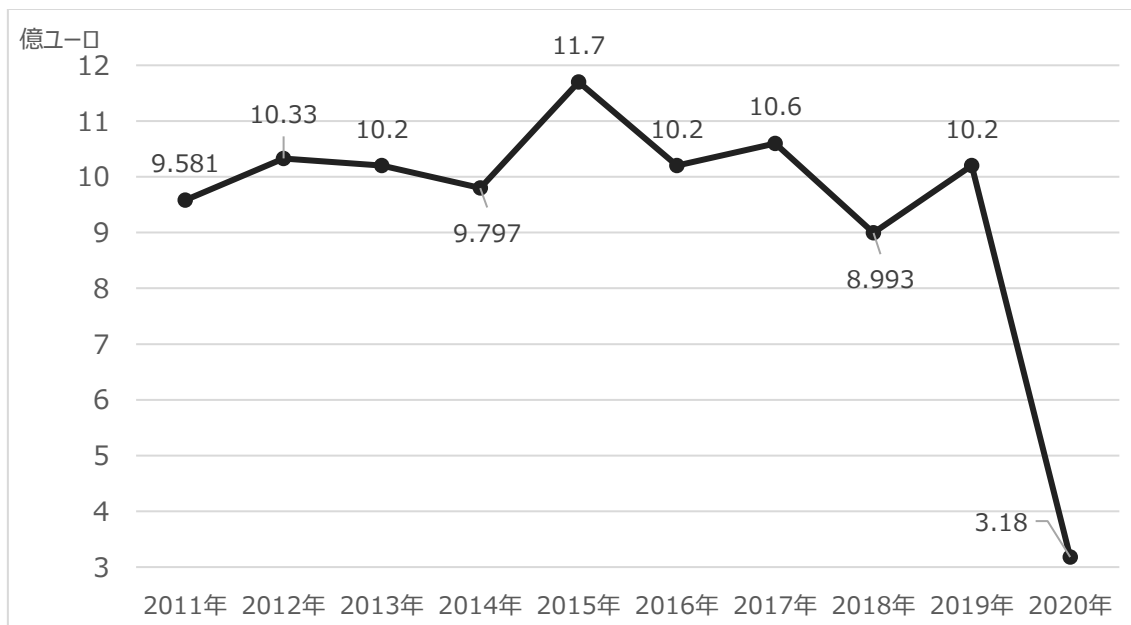
- ・国内興行収入： 3.18ユーロ (2019年：10.2億ユーロ)
 - ・国内の劇場動員数： 0.381億人 (2019年：1.186億人)
 - ・国内のスクリーン数： 4926 (2019年：4961)
 - ・平均チケット価格： 8.3ユーロ (2019年：8.6ユーロ)
 - ・一人あたりの年間平均入場回数： 0.5回 (2019年：1.4回)
 - ・マーケットシェアにおける国産映画の割合： 35.1% (2019年：21.5%)
 - ・映画製作本数： 152本 (2019年：265本)
- *100%国産 = 98本、国際共同製作 = 54本

ドイツの国内市場規模

1. 興行収入（2011-2020）¹

* 欧州の中では興行収入が伸び悩み 2020 年に大きく落ち込みましたが、世界第 7 位の規模である。

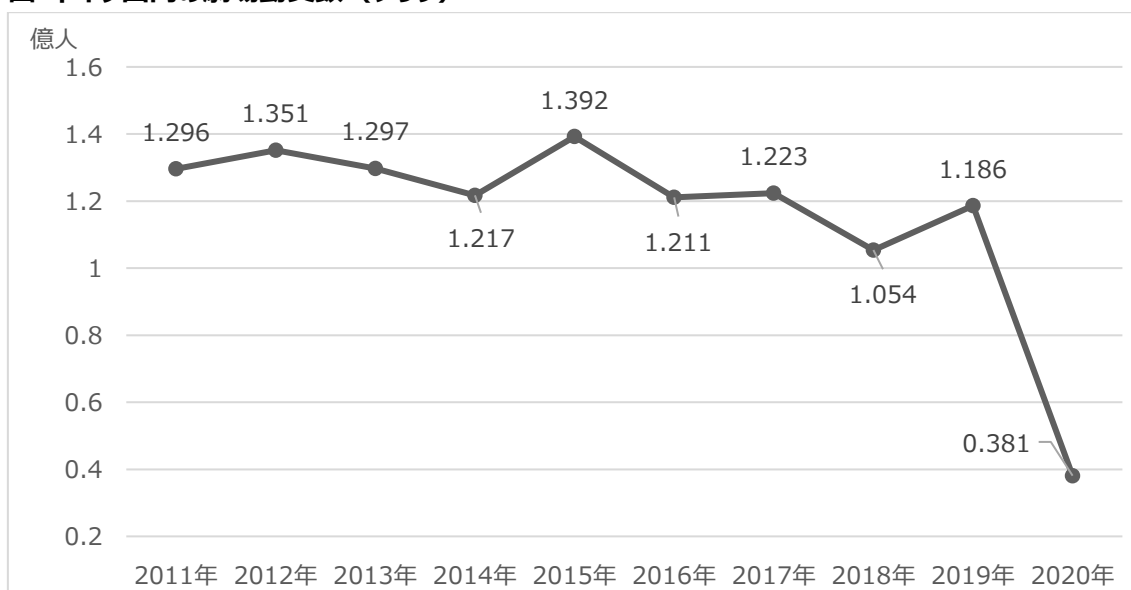
図 ドイツ国内の劇場興行収入（グラフ）



2. 動員数（2011-2020）²

* 1.2 億人前後を推移していたが、2020 年は大きく落ち込み 3 割程度となった。

図 ドイツ国内の劇場動員数（グラフ）



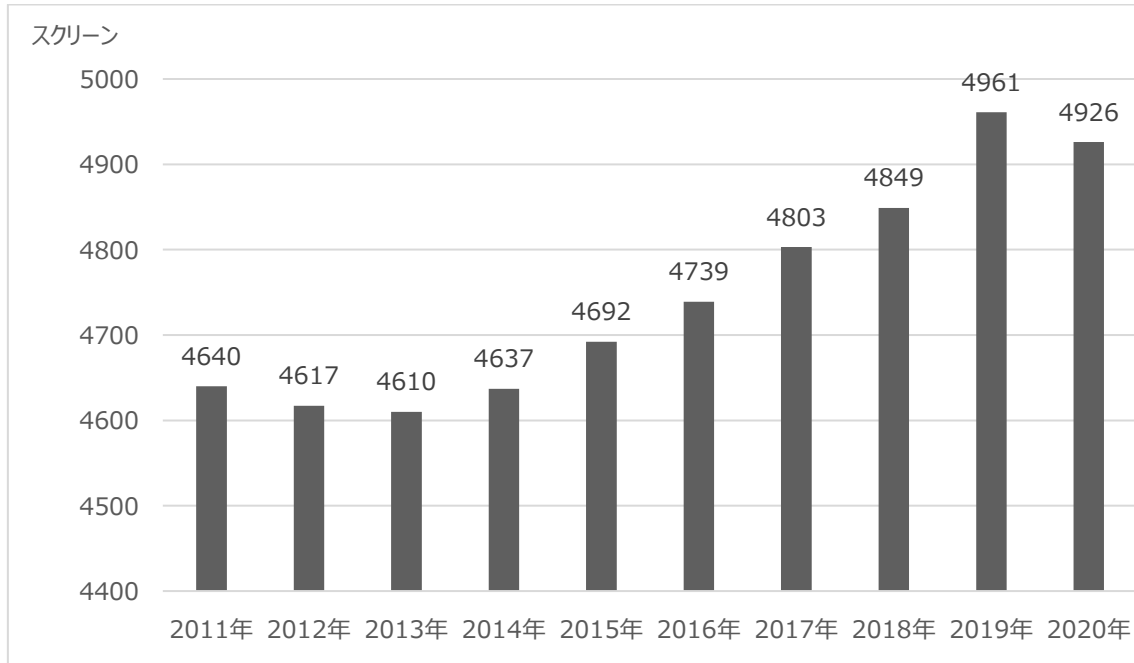
¹ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数 (2011-2020) ³

* スクリーン数は一時減少したが、デジタル対応スクリーンの増加で持ち直し、現在は 5000 程度。

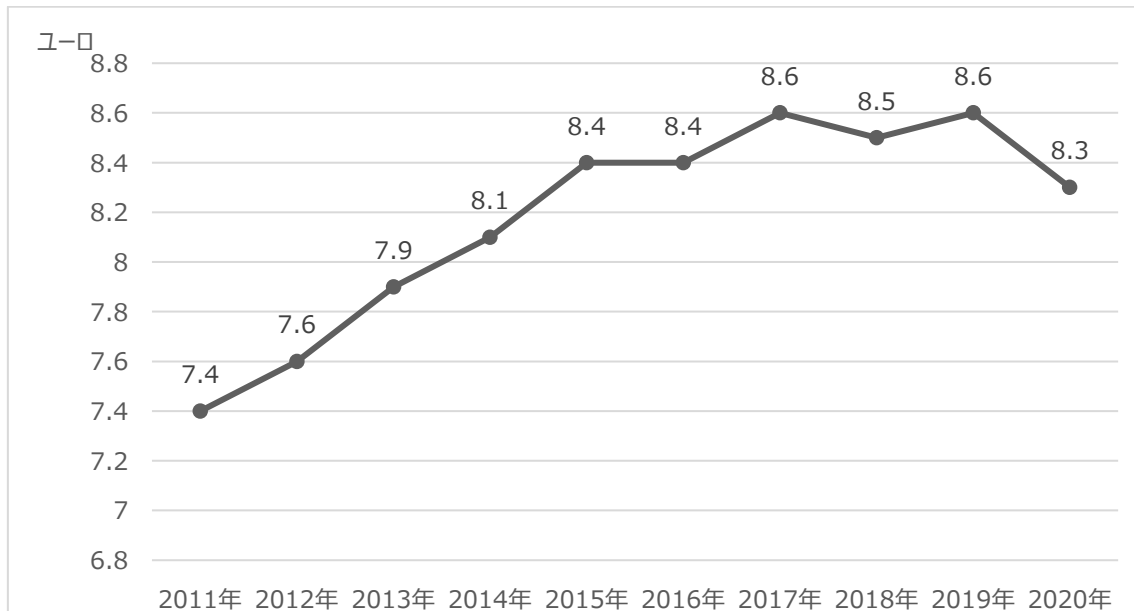
図 ドイツ国内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (ユーロ) (2011-2020) ⁴

* チケット価格は年々上昇しており、欧州の中でも高水準である。

図 ドイツ国内の平均チケット価格 (グラフ)



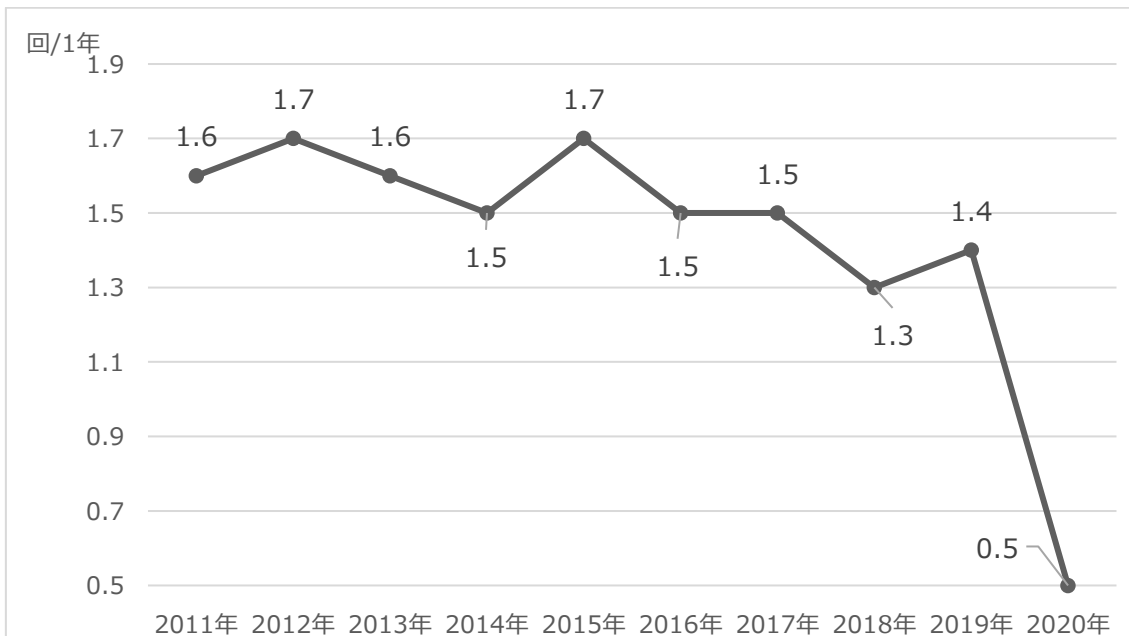
³ European Audiovisual Observatory 発行 「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 欧州平均（2019年：2回）を下回って推移し、2020年は0.5回にまで落ち込んだ。

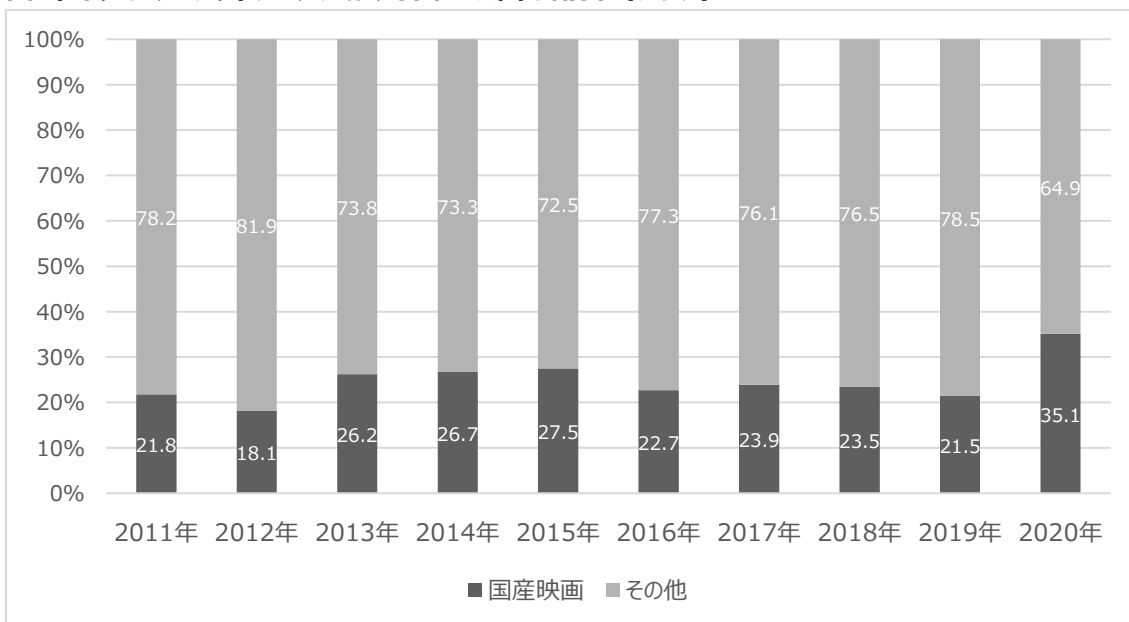
図 ドイツ国内の一人あたりの年間平均入場回数（グラフ）



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2011-2020）⁶

* 国産映画の割合は減少傾向で2割強程度だったが、2020年は35%程度に持ち直した。

図 ドイツのマーケットシェアにおける国産映画の割合（グラフ）



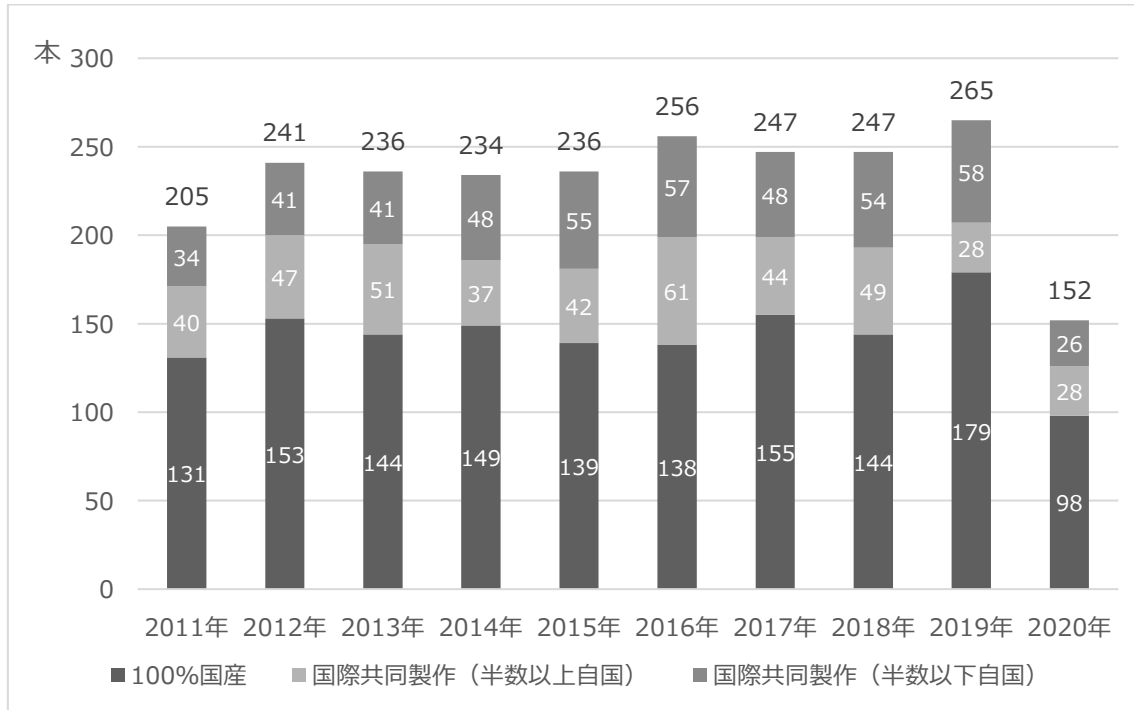
⁵ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁶ 同上

7. 映画製作本数（2011-2020）⁷

* 製作本数は欧州 3 位の規模で、国際共同製作の割合は他国と比較しても高水準である。

図 ドイツの映画製作本数(グラフ)



⁷ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

中国

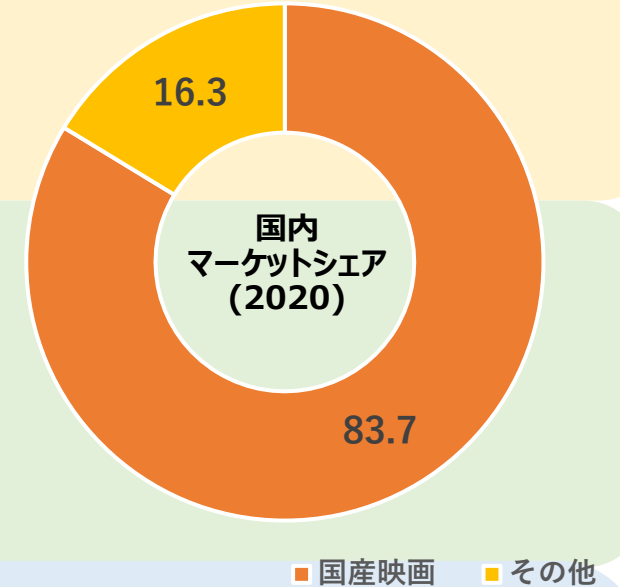


映画産業

- ・外国映画の数量制限、国内映画を含めた全ての映画の検閲がある
- ・国内映画制作本数はインドに次ぎ2位
- ・大型作品の興行がメイン、制作費は年々高騰

国内市場

- ・市場規模は1兆円に迫る規模で成長し、2020年は北米を抜き世界1位に
- ・スクリーン数、動員数世界1位、年々増加傾向
- ・国内映画のシェアが近年は常に5割以上を占める



市場データ (2020年)

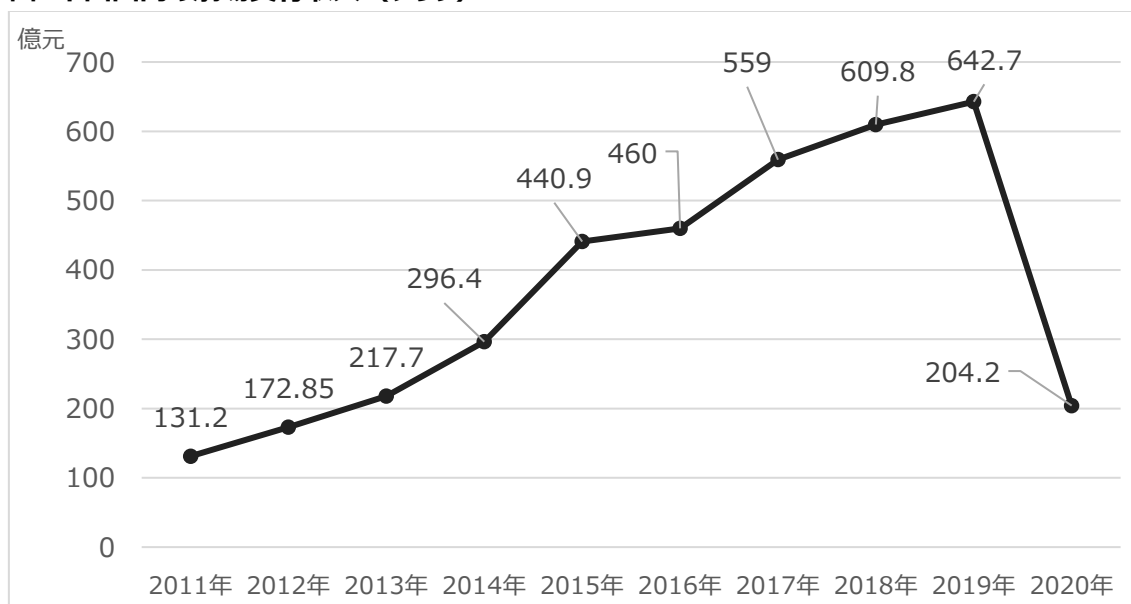
- ・国内興行収入： 204.2億元 (2019年：642.7億元)
- ・国内の劇場動員数： 5.48億人 (2019年：17.3億人)
- ・国内のスクリーン数： 75581 (2019年：69787)
- ・平均チケット価格： 37.3元 (2019年：37.2元)
- ・一人あたりの年間平均入場回数： 0.4回 (2019年：1.2回)
- ・マーケットシェアにおける国産映画の割合： 83.7% (2019年：64.1%)
- ・映画製作本数： 650本 (2019年：1037本)

中国の国内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020) ¹

* 市場規模は急速に成長。2020年は減少するも、北米を抜き世界第1位の規模となった。

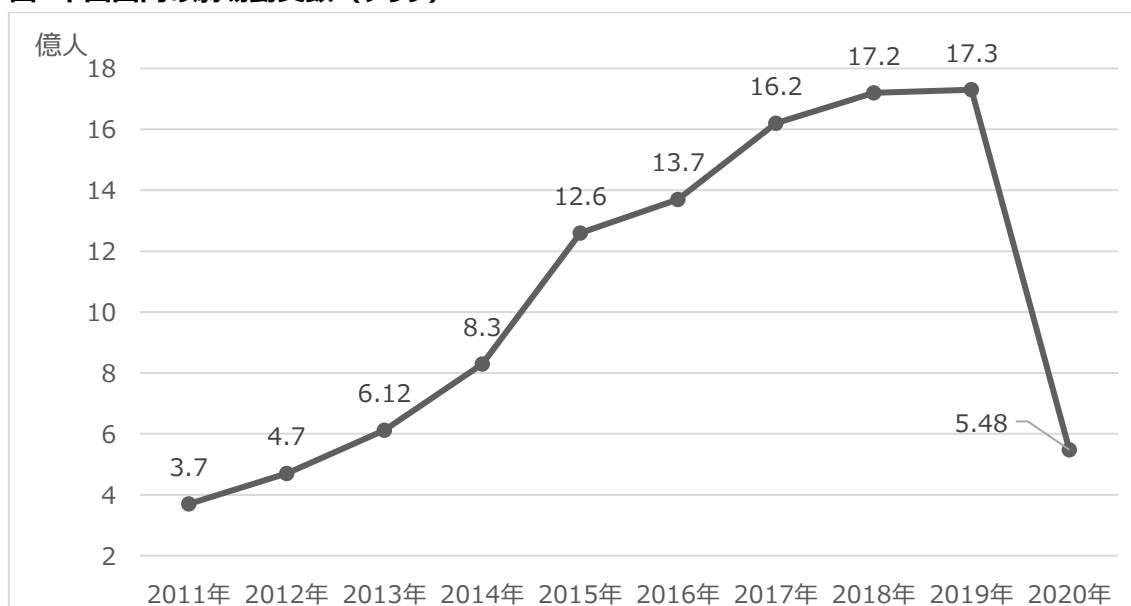
図 中国国内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020) ²

* 動員数も興行収入と比して増加。2020年は鈍化して2013年と同等程度になった。

図 中国国内の劇場動員数 (グラフ)



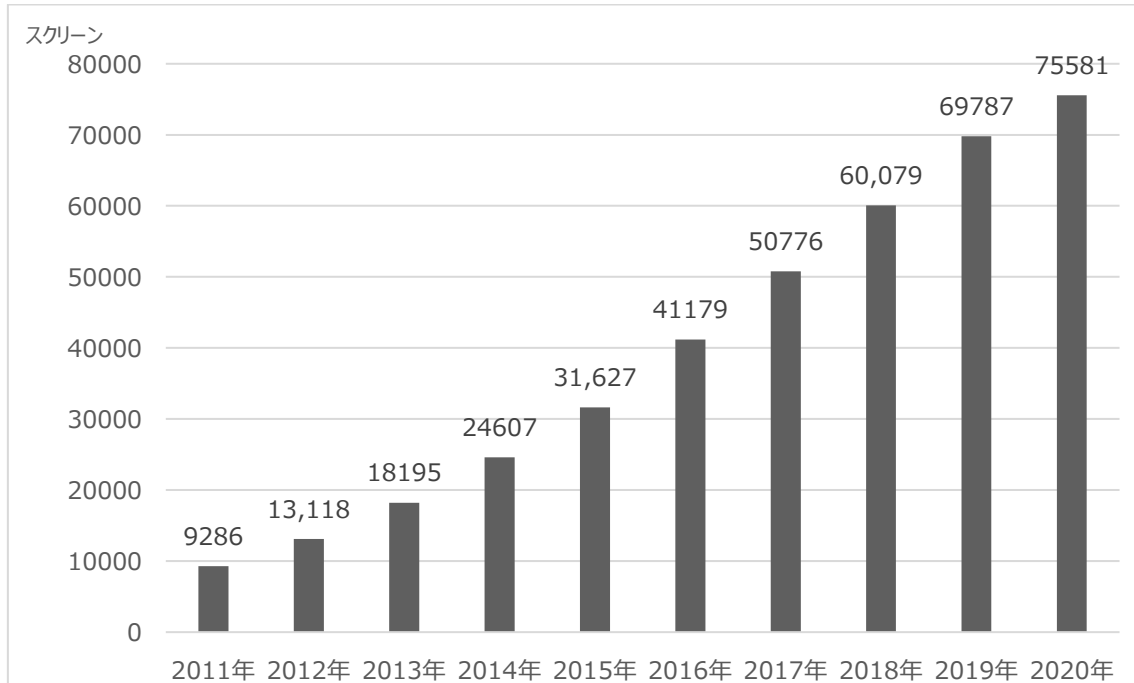
¹ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数 (2011-2020) ³

* スクリーンは急激に数を増やし、10年間で8倍以上となり全世界1位の数である。

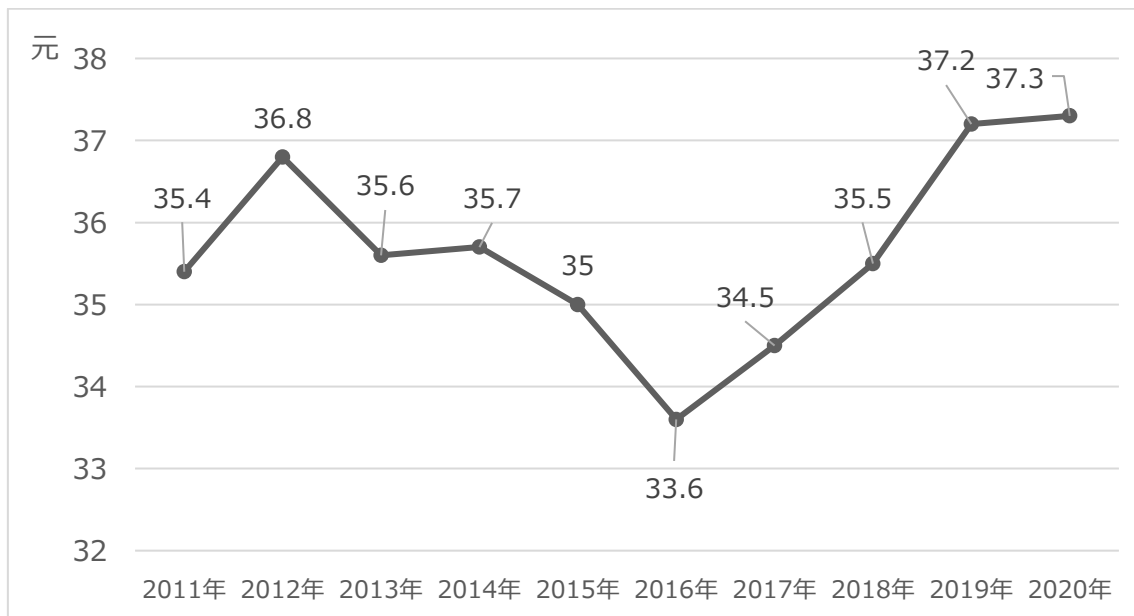
図 中国国内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (元) (2011-2020) ⁴

* チケット価格は一時値下がりしたが、現在は37元程度を推移している。

図 中国国内の平均チケット価格 (グラフ)



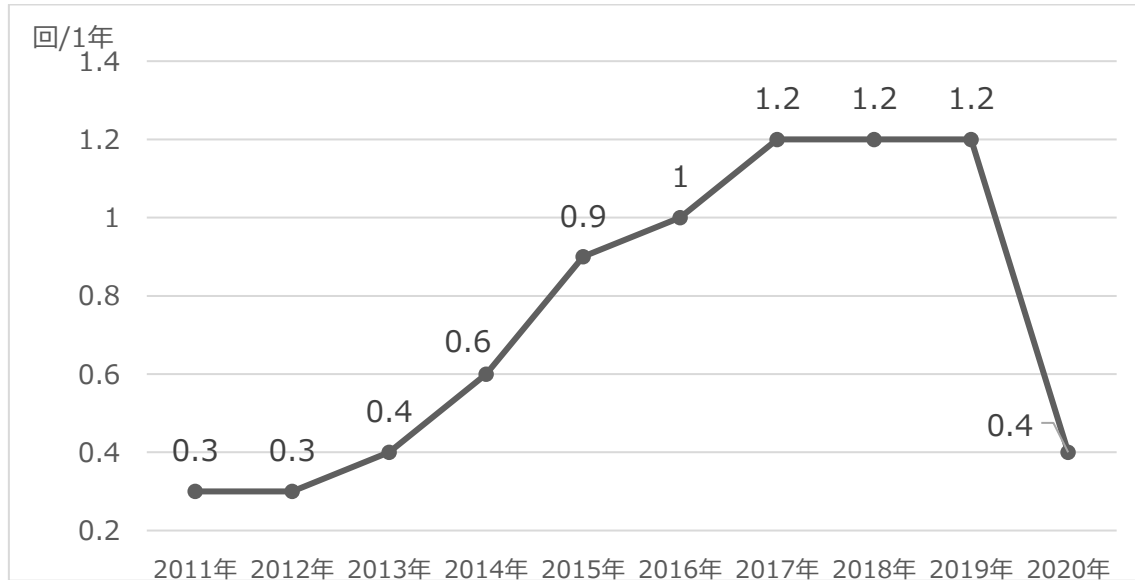
³ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 映画先進国と同等の数に増えていた入場回数も、2020年は2013年と同程度になった。

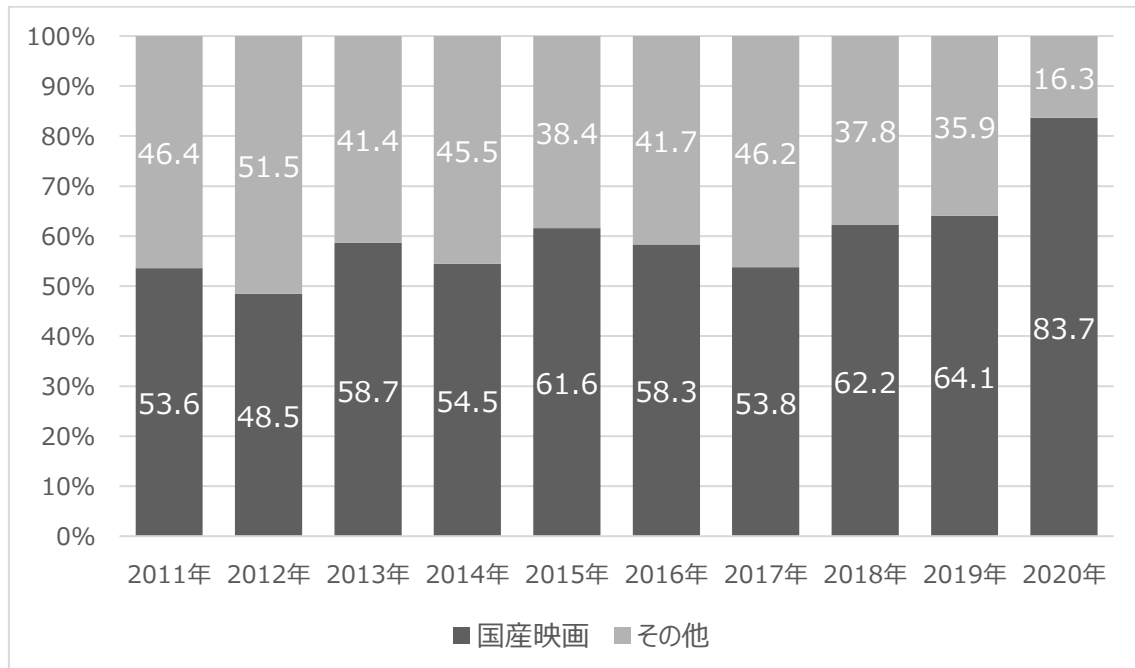
図 中国国内の一人あたりの年間平均入場回数（グラフ）



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2011-2020）⁶

* クォータ制度も影響し国産映画の割合は常に半数以上。近年は高くなる傾向にある。

図 中国国内のマーケットシェアにおける国産映画の割合



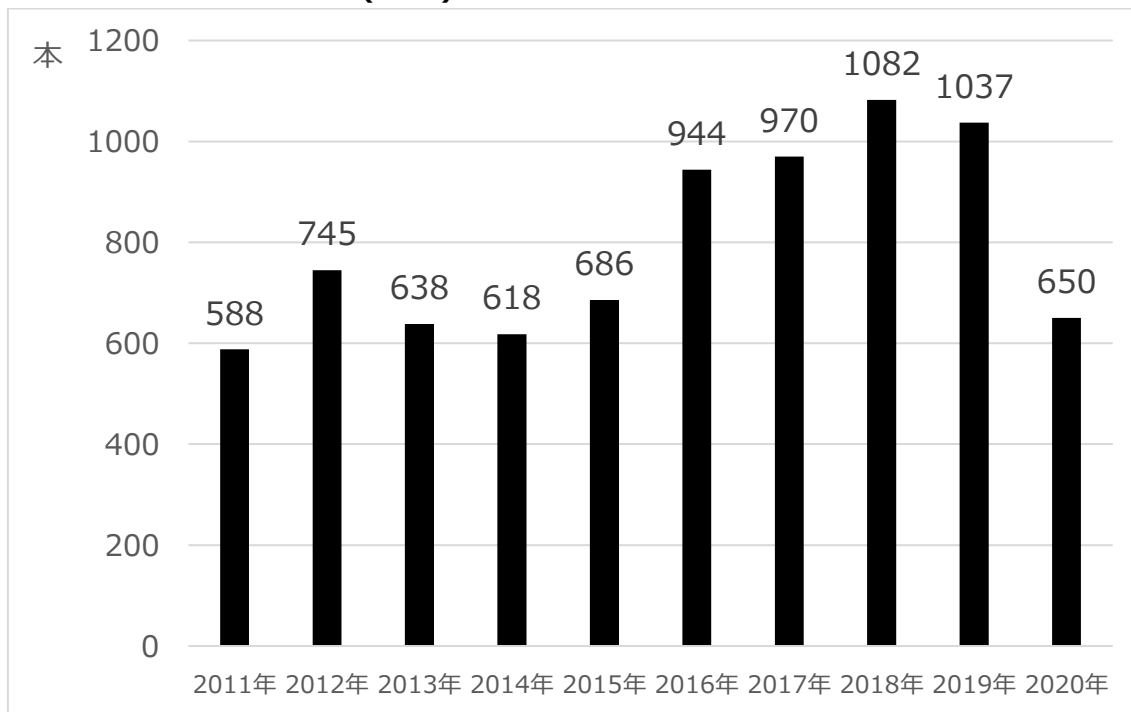
⁵ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁶ 同上

7. 映画製作本数（2011-2020）⁷

* 製作本数は 2018 年に 1000 本を突破。2020 年は減少も、インドに次ぐ世界第 2 位である。

図 中国国内の映画製作本数(グラフ)



〔注釈〕国際共同製作の本数に関する定点的なデータはないため、記載しない。

⁷ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

韓国

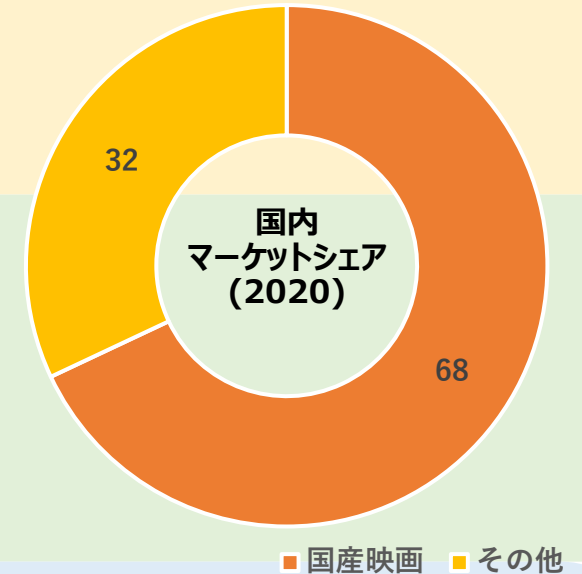


映画産業

- ・ここ数年（2020年を除き）国民一人当たり年に4回以上の劇場鑑賞し、動員数は堅調に推移
- ・国内興行収入は全世界5位の規模を誇る
- ・映画製作本数は世界第5位、年々増加傾向 *公開本数換算

国内市場

- ・国内興行収入は増加傾向（※コロナ禍以前の推移）
- ・国内映画のシェアが5割を占める（2020年は7割近く）
- ・興行収入の上位作品は、国内作品かハリウッド作品



市場データ (2020年)

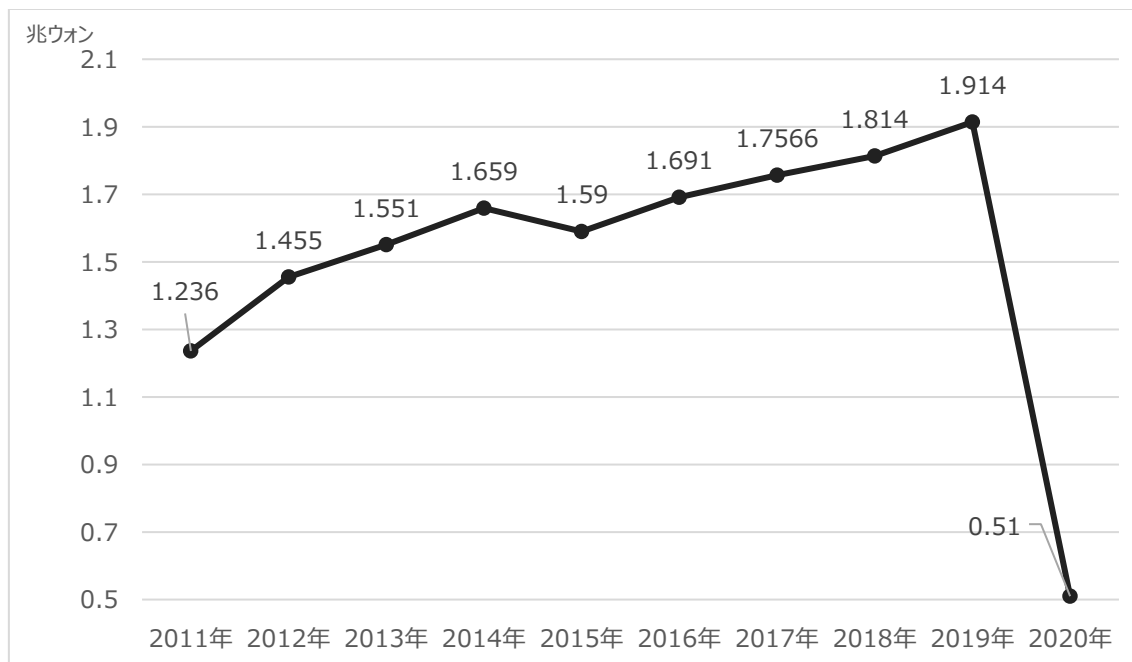
- ・国内興行収入： 5100億ウォン（2019年：1兆9140億ウォン）
 - ・国内の劇場動員数： 5950万人（2019年：2.267億人）
 - ・国内のスクリーン数： 3015（2019年：3079）
 - ・平均チケット価格： 8571.4ウォン（2019年：8442.9ウォン）
 - ・一人あたりの年間平均入場回数： 1.1回（2019年：4.2回）
 - ・マーケットシェアにおける国産映画の割合： 68%（2019年：51%）
 - ・国産映画公開本数： 615本（2019年：502本）
- *製作本数、および国際共同製作本数はデータ無

韓国の国内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020) ¹

* 10年間で9000億ウォン近くの成長を遂げたものの、2020年は3割弱に落ち込んだ。

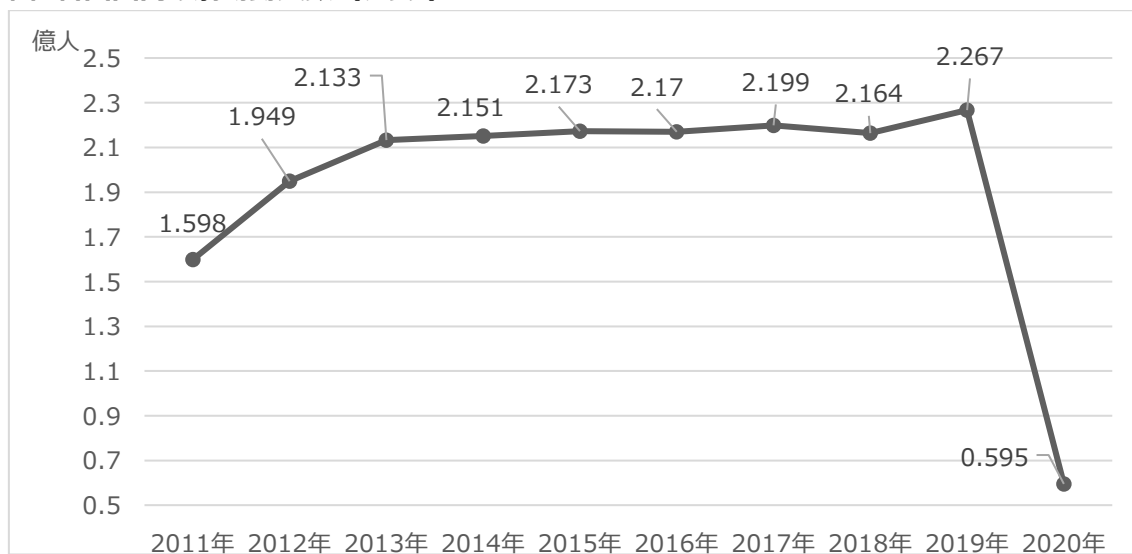
図 韓国国内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020) ²

* 順調に成長を続けていた動員数も、興行収入に比して2020年は大幅に減少した。

図 韓国国内の劇場動員数 (グラフ)



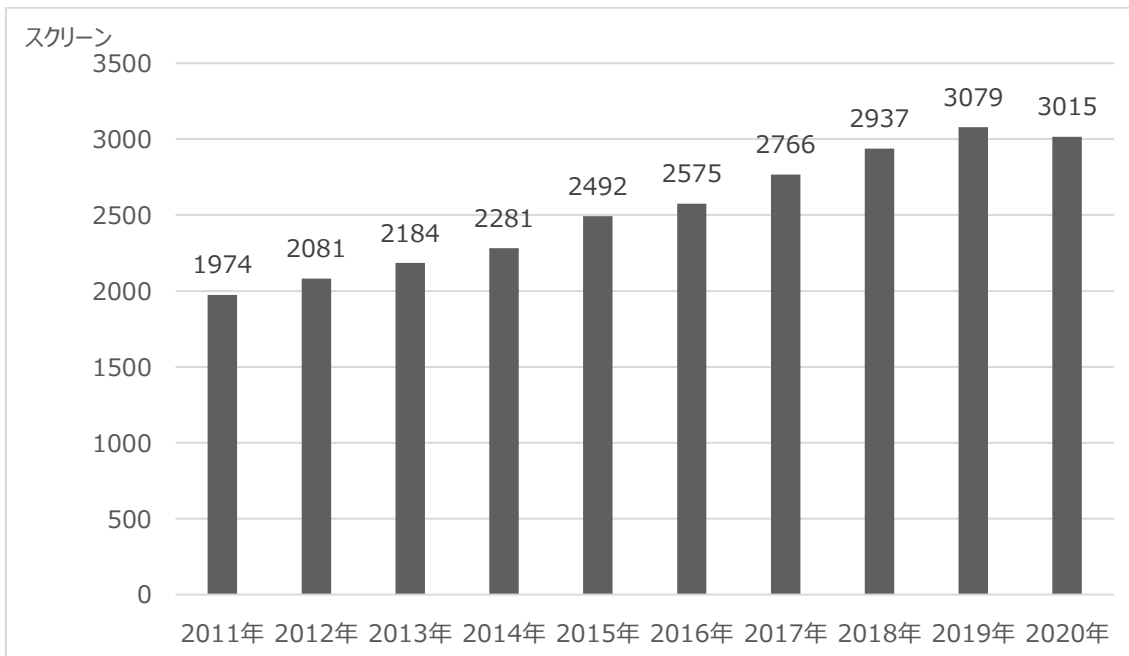
¹ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数 (2011-2020) ³

* スクリーン数は年々増加し、2019年には3000スクリーンを突破している。

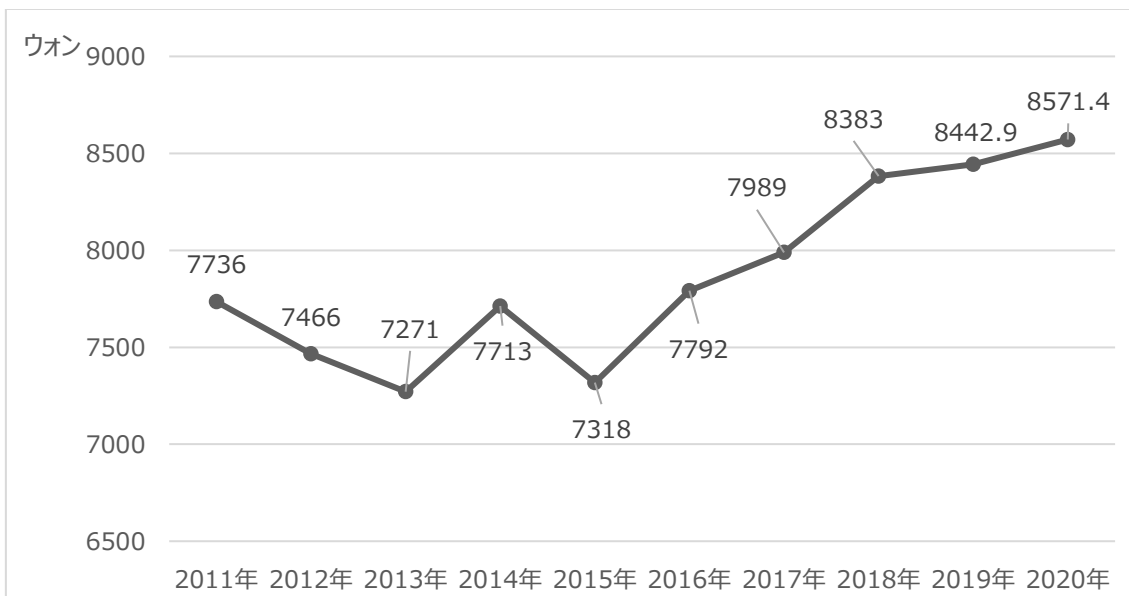
図 韓国国内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (ウォン) (2011-2020) ⁴

* チケット価格は年により変動するが、緩やかに上昇している。

図 韓国国内の平均チケット価格 (グラフ)



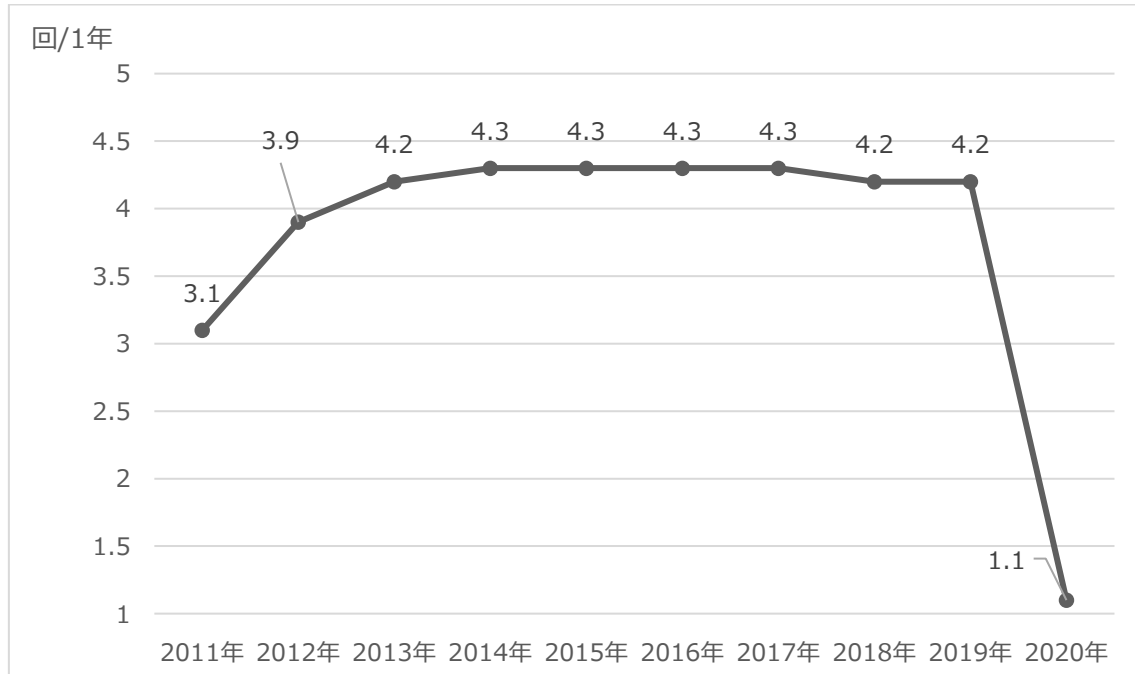
³ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 常に4回以上の数値をキープし、他国と比べても回数は極めて多かったが2020年は落ち込んだ。

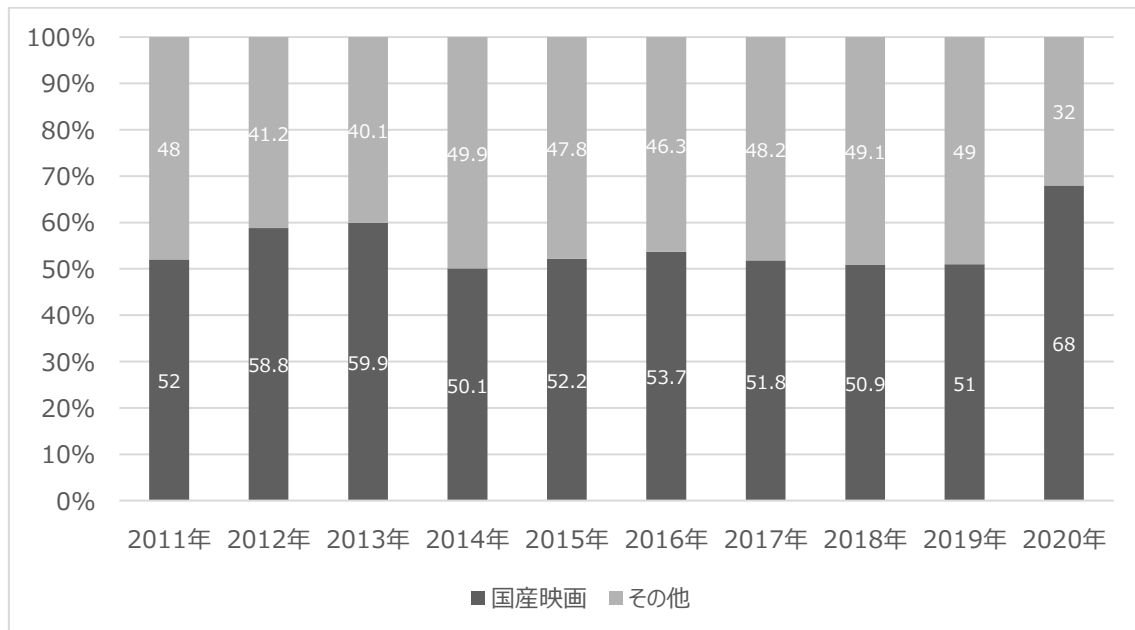
図 韓国国内の一人あたりの年間平均入場回数（グラフ）



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2011-2020）⁶

* 2011年以降は常に半数以上を国産映画が占めている。2020年は7割近くに達した。

図 韓国国内のマーケットシェアにおける国産映画の割合



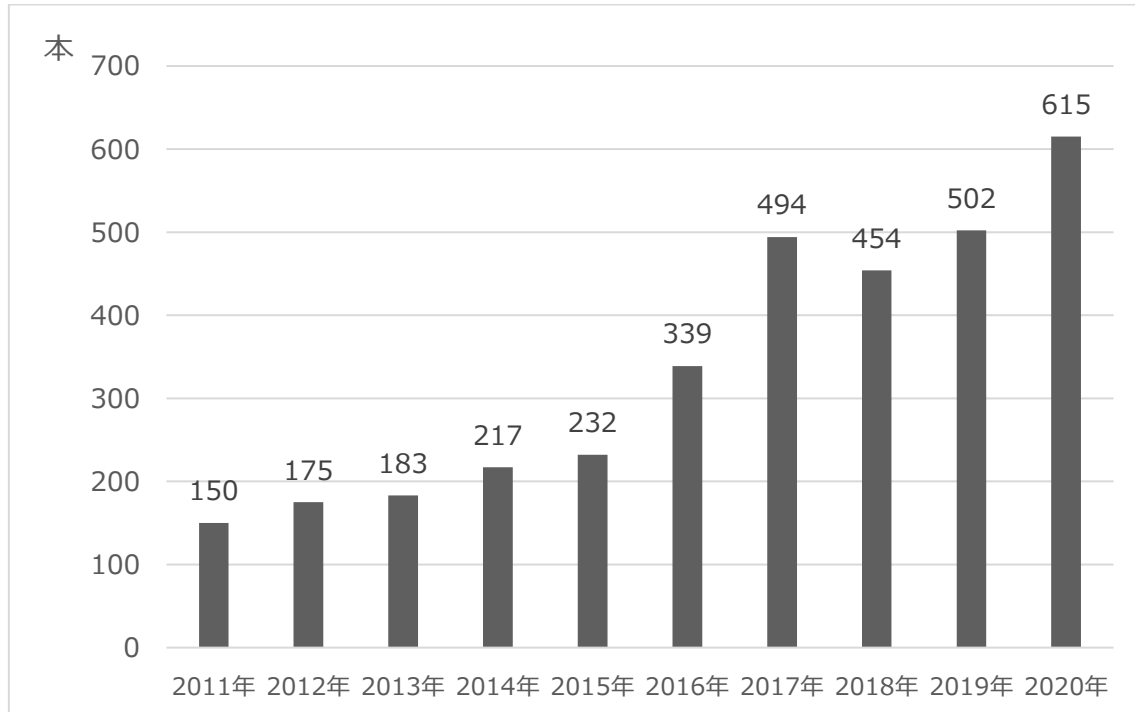
⁵ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁶ 同上

7. 国産映画公開本数（2011-2020）⁷

* 公開本数は、常に昨年を上回るペースで増加している。

図 韓国国内の国産映画公開本数(グラフ)



〔注釈〕⁸

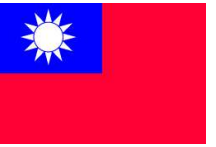
韓国は、「映画製作本数」の定点的な統計を取っておらず、本報告書には「公開本数」を掲載する。KMRB（韓国の映倫）に申請のあった年度を基準に数字を算出するため、正確な製作年を判断できないためである。

上記グラフにおける「公開」の定義についても、KOFIC 発行の“Korean Film Industry 2018”によると、Korean Box Office Information System に登録されたタイミングでの集計、としている。なお 2010 年初頭から R 指定作品で、公開後すぐに VOD 市場へ放出する作品が急増した影響から集計結果にはこうした作品（レポート内では“Perfunctory release of R-rated films”と表現）の割合が多い。こうした除外した“実際の公開作品”を 2018 年以降算出することとしている。“実際の公開作品”は該当年に 40 回以上劇場で公開した作品を基準とし、アート系映画や独立系映画で 40 回に満たない作品は KOFIC が個別に判断し、追加している。この統計基準を用いると、2018 年の国産映画公開本数は 194 本（上記グラフでは 454 本）で、大きな違いが生じることとなる。

⁷ Korean Film Industry 2018 および European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2020 年版を元に作成

⁸ 「Korean Film Industry 2018」の記載内容を参考。当レポートは 2018 年が報告書作成時点での最新版である。

台湾

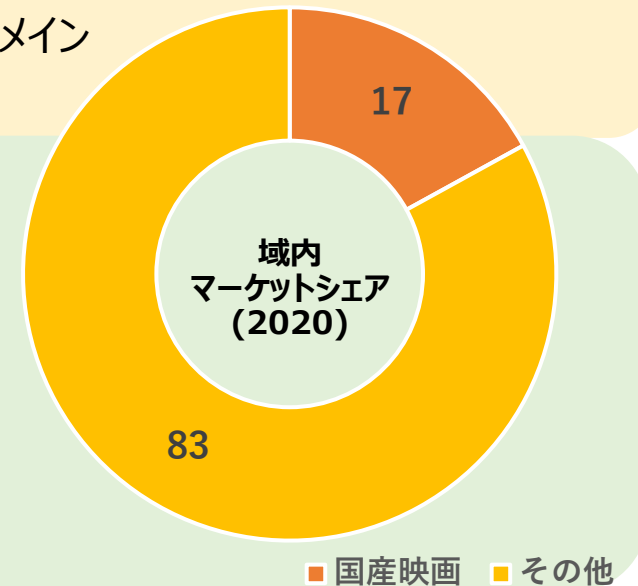


映画産業

- ・興行収入、動員数、スクリーン数は年々堅調に増加
- ・協定を介した国際共同製作は無く、外国映画のロケ誘致の際の共同制作がメイン

域内市場

- ・台湾の興行収入は1割程度（2020年は微増）
- ・公開本数/興行収入共にハリウッド映画のシェアが圧倒的、作品別の成績でも上位を占める
- ・公開本数はアメリカに次ぎ日本が2位、ただし興行収入は韓国が上回る
- ・中国作品の公開は年10本程度とする制限あり



市場データ (2020年)

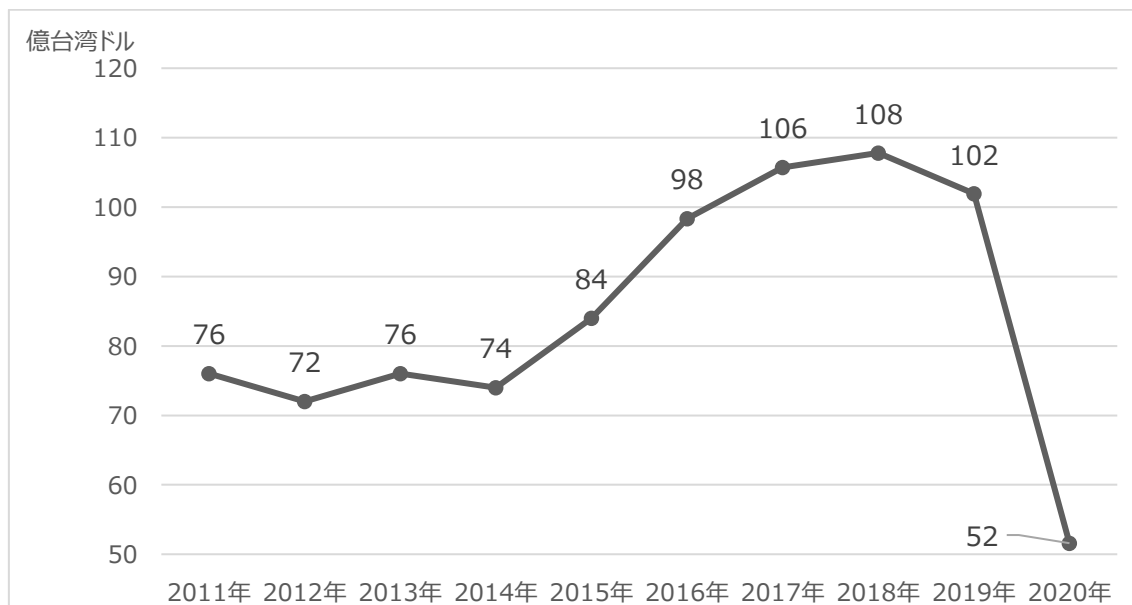
- ・国内興行収入： 51.59億台湾ドル（2019年：101.91億台湾ドル）
- ・国内の劇場動員数： 2183万人（2019年：4320万人）
- ・国内のスクリーン数： 928（2019年：918）
- ・平均チケット価格： 236.33台湾ドル（2019年：235.90台湾ドル）
- ・一人あたりの年間平均入場回数： 0.92回（2019年：1.83回）
- ・マーケットシェアにおける国産映画の割合： 17%（2019年：6.9%）
- ・映画新作公開本数： 40本（2019年：48本）

台湾の域内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020¹)

* 近年順調に増加していたが、2020年は前年の半分程度に落ち込んだ。

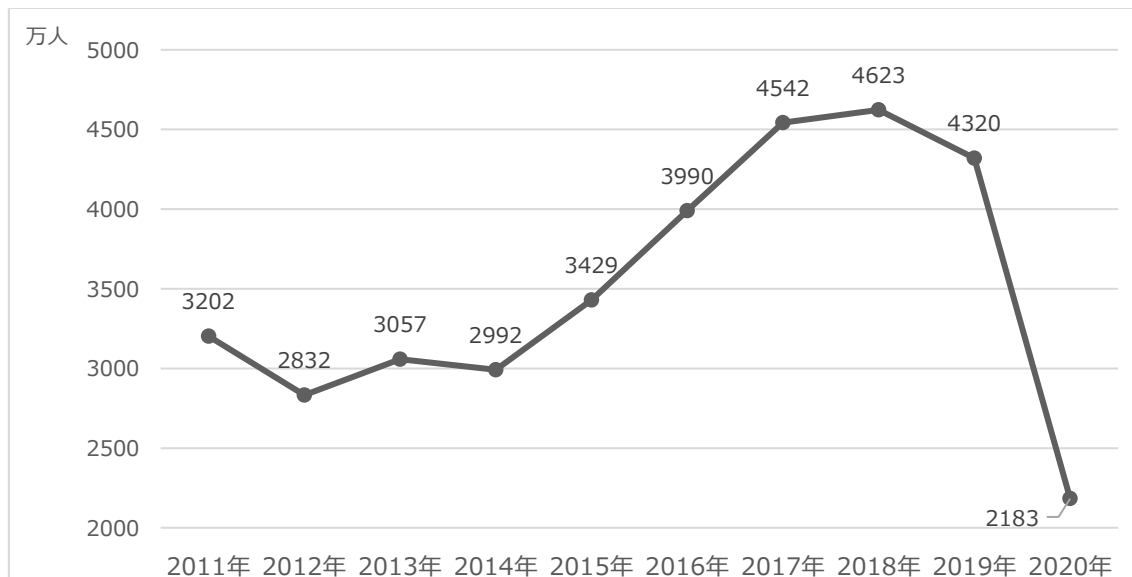
図 台湾域内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020)²

* 近年、興行収入と比べて堅調に増加していたが、2020年は前年比半分程度となった。

図 台湾域内の劇場動員数 (グラフ)



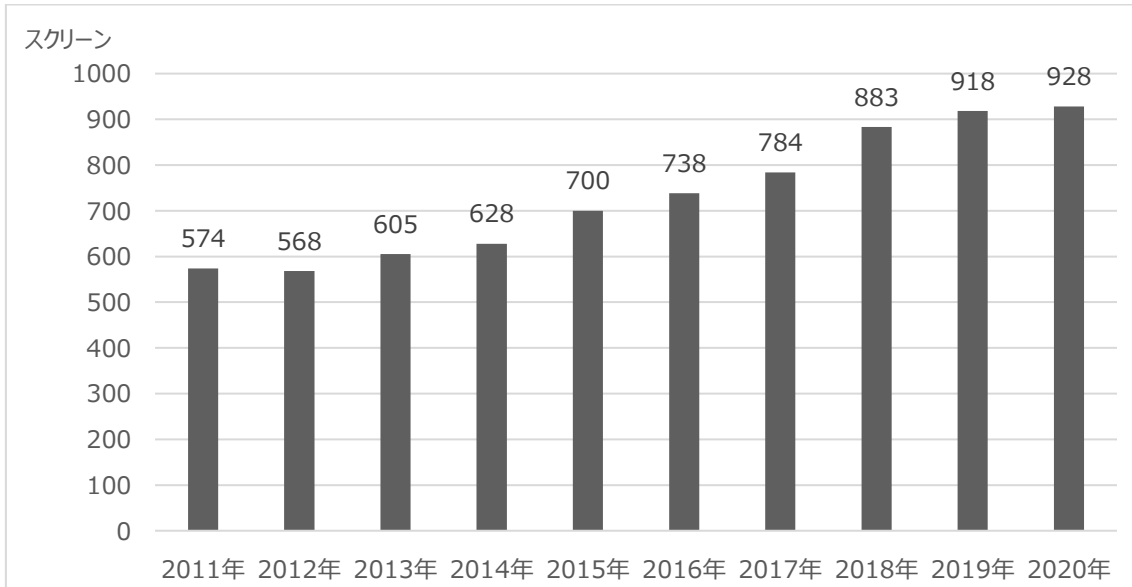
¹ 文化部発行「電影市場動態」を元に作成 https://www.bamid.gov.tw/informationlist_243_1.html

² 同上 ただし 2015年と2016年の動員数はデータ無く、興行収入総計÷チケット単価で概算し四捨五入

3. スクリーン数 (2011-2020) ³

* 順調に増え続け、10年で400スクリーン弱増加した。

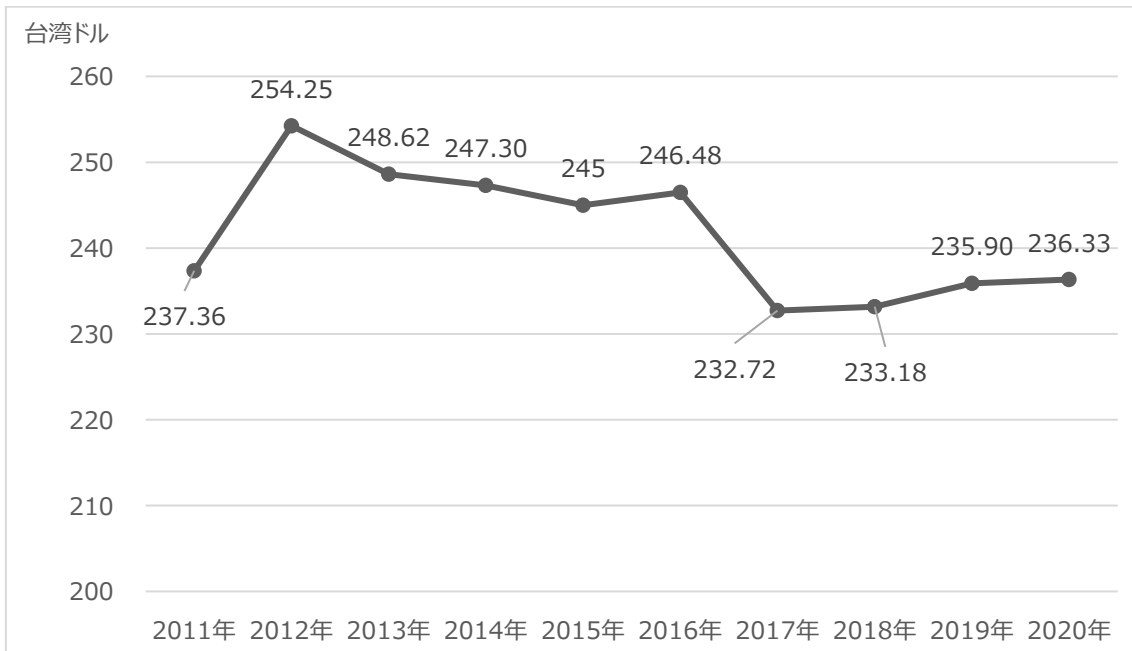
図 台湾域内のスクリーン数 (グラフ)



4. 平均チケット価格 (台湾ドル) (2011-2020) ⁴

* チケット価格は減少気味だが、近年は230台湾ドル程度で落ち着いている。

図 台湾域内の平均チケット価格 (グラフ)



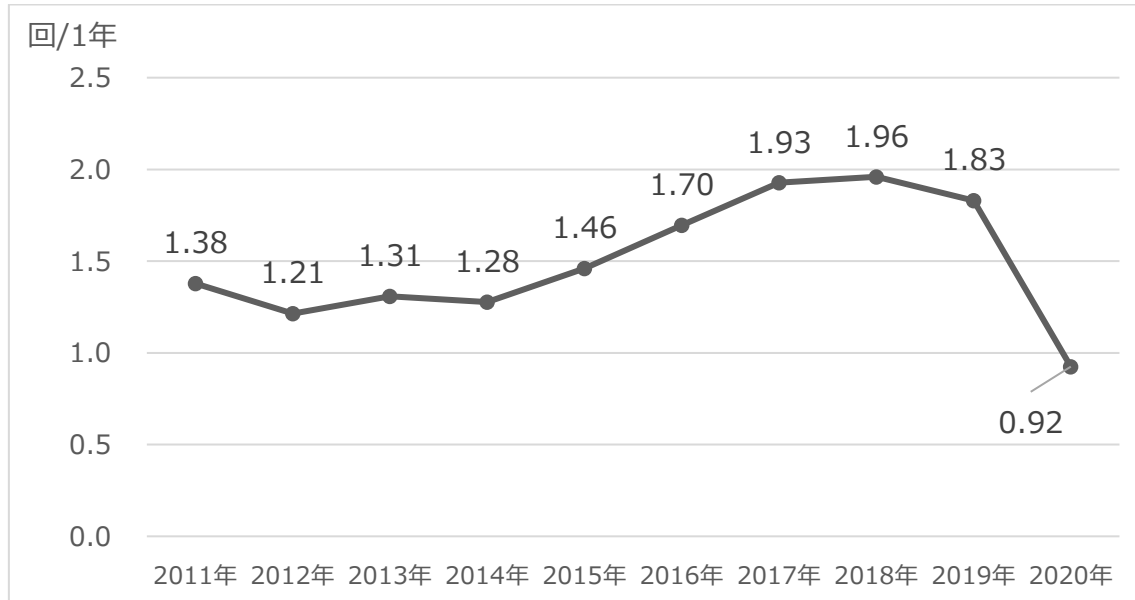
³ データ参照 European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁴ データ参照 文化部発行「電影市場動態」を元に作成 https://www.bamid.gov.tw/informationlist_243_1.html
ただしデータがないものは、興行収入÷動員数で算出

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 近年順調に増えてきていたが、2020年は前年比で半分程度に落ち込んだ。

図 台湾域内の一人あたりの年間平均入場回数



6. マーケットシェアにおける台湾映画の割合（2011-2020）⁶

* 台湾映画の割合は大きな変動はなく、1割前後を推移している。2020年は17%に上昇した。

図 台湾域内のマーケットシェアにおける台湾映画の割合



【注釈】2017年までは台北市の数値のみを集計しているため、参考データとする。

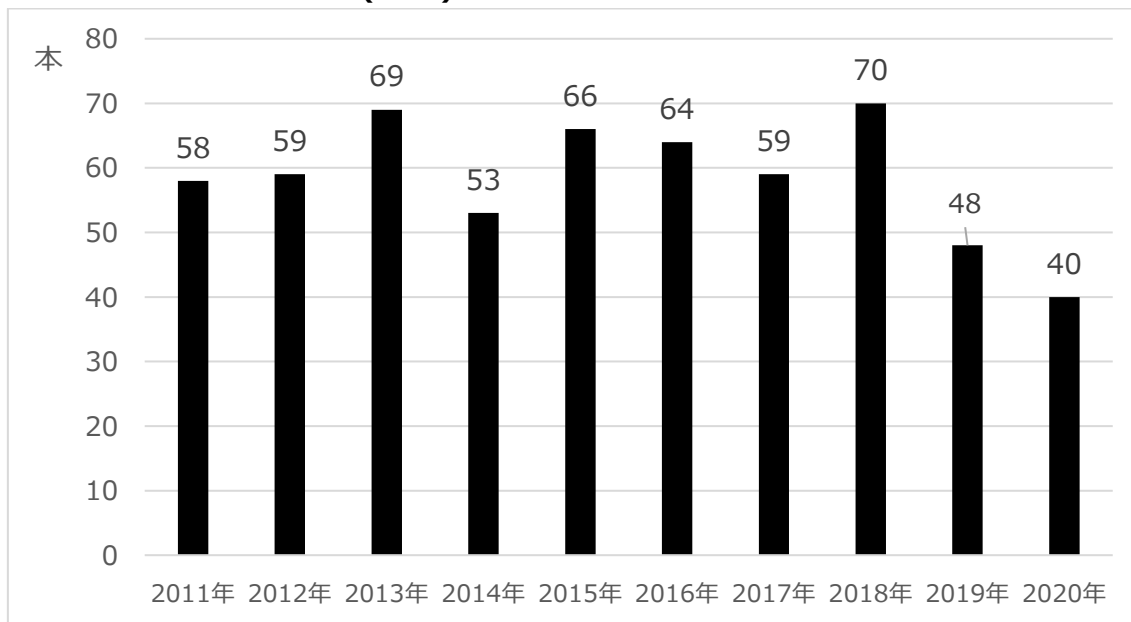
⁵ 既存データをもとに算出（人口÷動員数）

⁶ 文化部発行「電影市場動態」を元に作成 https://www.bamid.gov.tw/informationlist_243_1.html

7. 映画製作本数（2011-2020）⁷

* 年により変動がある。ここ数年は減少傾向にあり。

図 台湾域内の映画製作本数(グラフ)



【注釈】製作本数は変動が大きく統計が取りにくいことに加え、台湾では映画制作が完了したことを報告する義務がないため、正確な数字は不明。本データは新作として公開された台湾映画の公開本数である。

⁷データ参照 European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

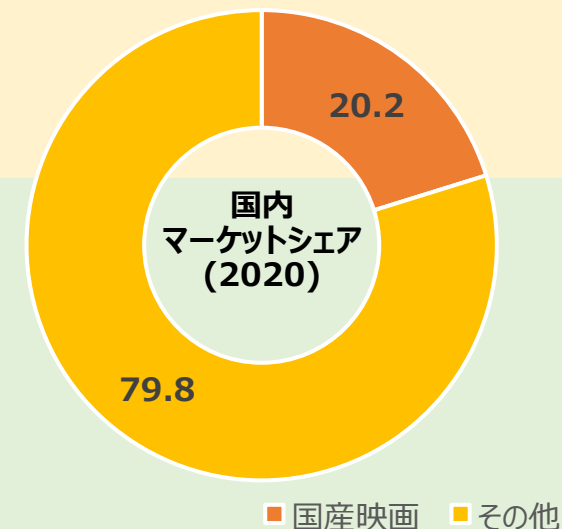


映画産業

- ・国際共同製作協定数は56カ国で世界第2位、毎年60作前後の共同製作を手掛ける（テレビ番組含む）
- ・国内映画制作本数は横ばい
- ・海外からのロケ利用は年々増加し、産業全体の半分近くを占める

国内市場

- ・世界最大の市場規模（※アメリカを含む北米）
- ・自国映画の興行収入は極めて低く、2%に満たない（2020年は例外）
- ・興行収入の上位はハリウッド映画が独占、全体でも9割以上を占める



市場データ (2020年)

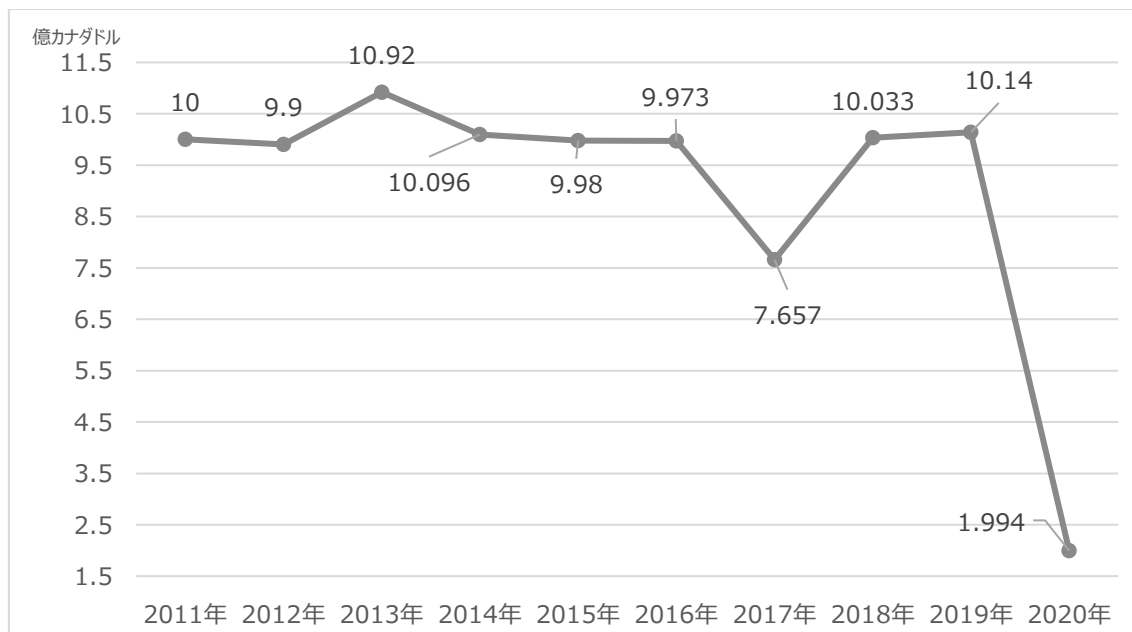
- ・国内興行収入： 1.994億カナダドル（2019年：10.14億カナダドル）
 - ・国内の劇場動員数： 0.213億人（2019年：1.107億人）
 - ・国内のスクリーン数： 3113（2019年：3111）
 - ・平均チケット価格： 9.4カナダドル（2019年：9.16カナダドル）
 - ・一人あたりの年間平均入場回数： 0.6回（2019年：3回）
 - ・マーケットシェアにおける国産映画の割合： 20.2%（2019年：1.7%）
 - ・映画製作本数： 137本（2019年：153本）
- *100%国産 = 112本、国際共同製作 = 25本

カナダの国内市場規模

1. 興行収入 (2011-2020) ¹

* 10 億カナダドル前後を推移していたが、2020 年は前年の 5 分の 1 程度に落ち込んだ。

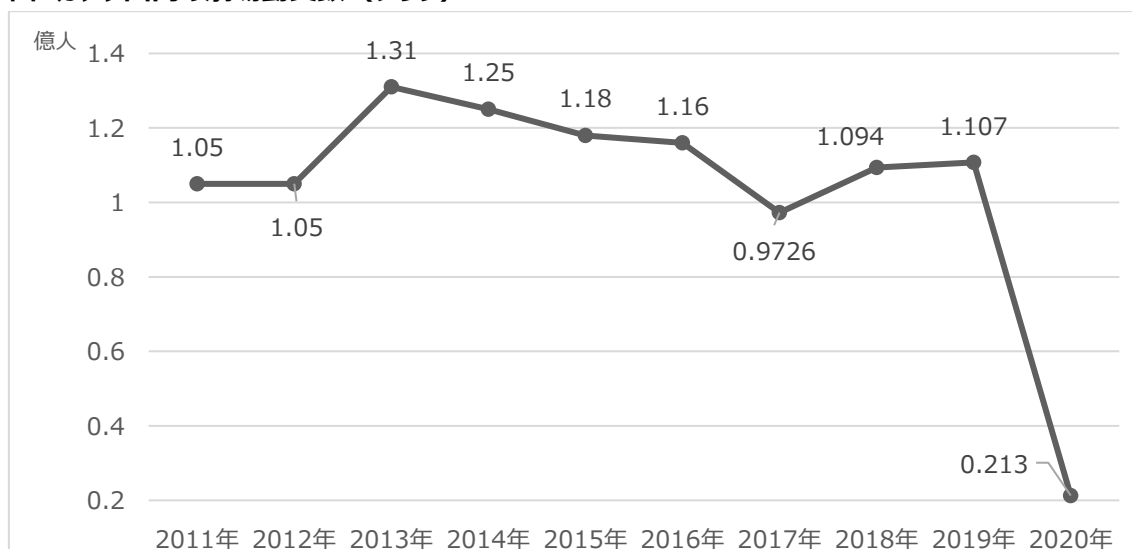
図 カナダ国内の劇場興行収入 (グラフ)



2. 動員数 (2011-2020) ²

* 1 億人以上の水準をキープしてきたが、2020 年は興行収入同様、前年比 5 分の 1 程度。

図 カナダ国内の劇場動員数 (グラフ)



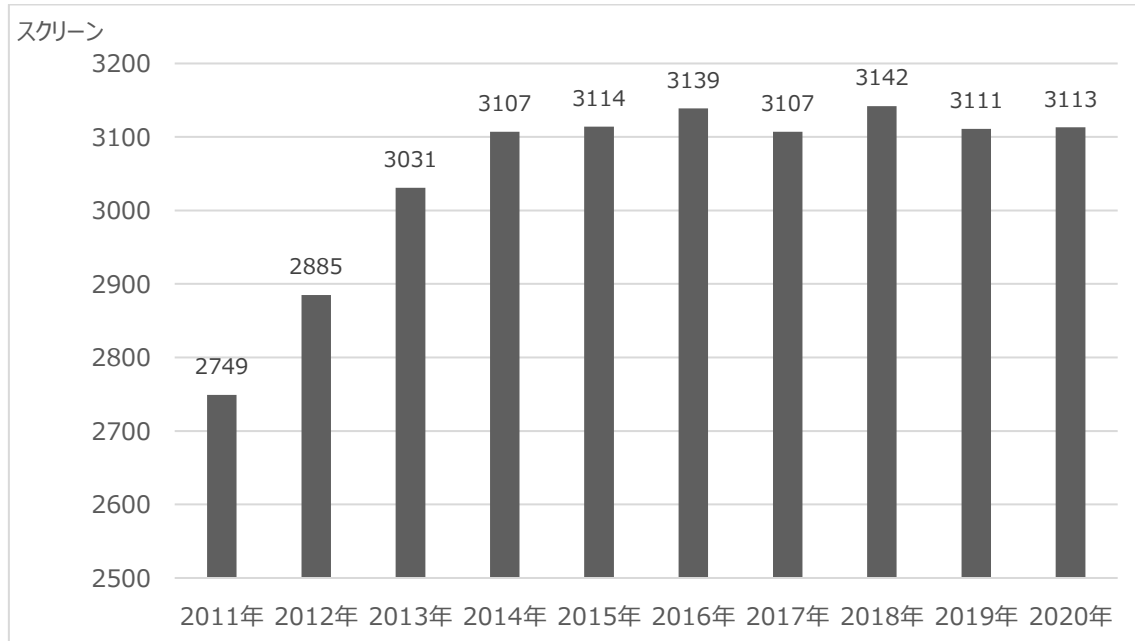
¹ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

² 同上

3. スクリーン数（2011-2020）³

* スクリーン数は年により変動するが、3000 スクリーン以上を維持している。

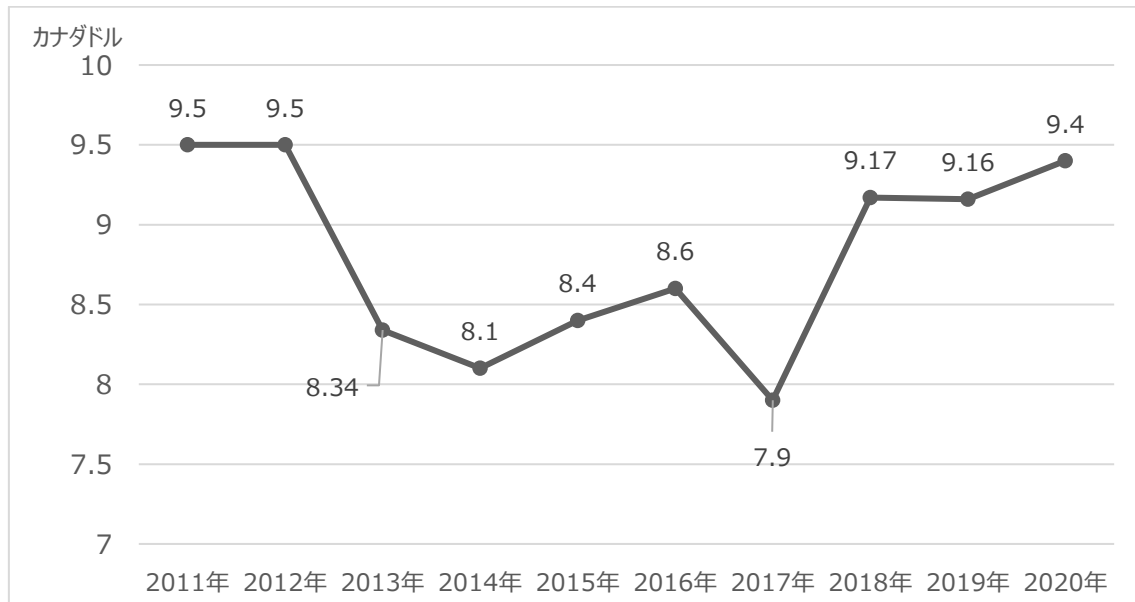
図 カナダ国内のスクリーン数（グラフ）



4. 平均チケット価格（カナダドル）（2011-2020）⁴

* 平均チケット価格は年により変動があるが、10年で1カナダドル以上値上がりした。

図 カナダ国内の平均チケット価格（グラフ）



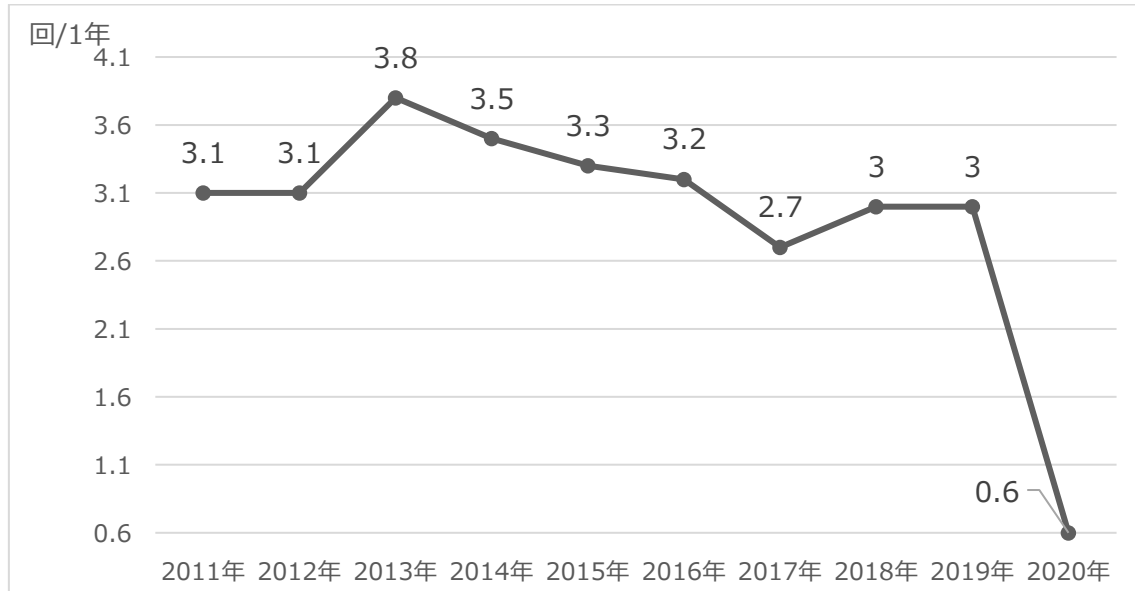
³ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011年版～2020年版を元に作成

⁴ 同上

5. 一人あたりの年間平均入場回数（2011-2020）⁵

* 概ね 3 回以上をキープし世界的にも高水準であったが、2020 年は激減した。

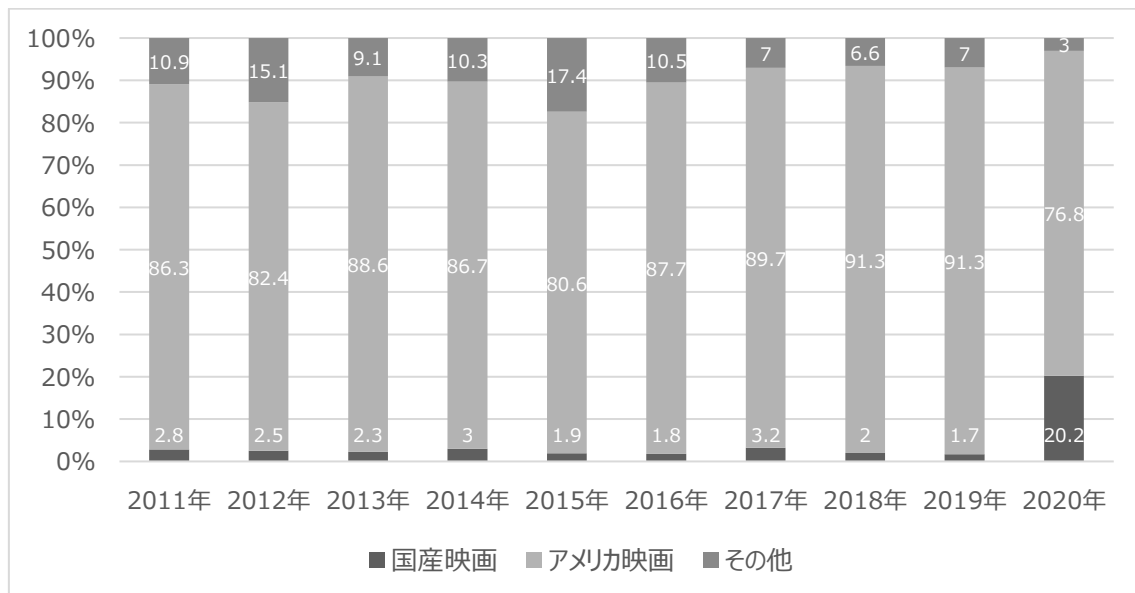
図 カナダ国内の一人あたりの年間平均入場回数（グラフ）



6. マーケットシェアにおける国産映画の割合（2011-2020）

* 国産映画の割合が著しく低く、シェアの大半をアメリカ映画が占める。2020 年は 20%に回復。

図 カナダ国内のマーケットシェアにおける国産映画とアメリカ映画、その他の割合⁶



⁵ European Audiovisual Observatory 発行「FOCUS」2011 年版～2020 年版を元に作成

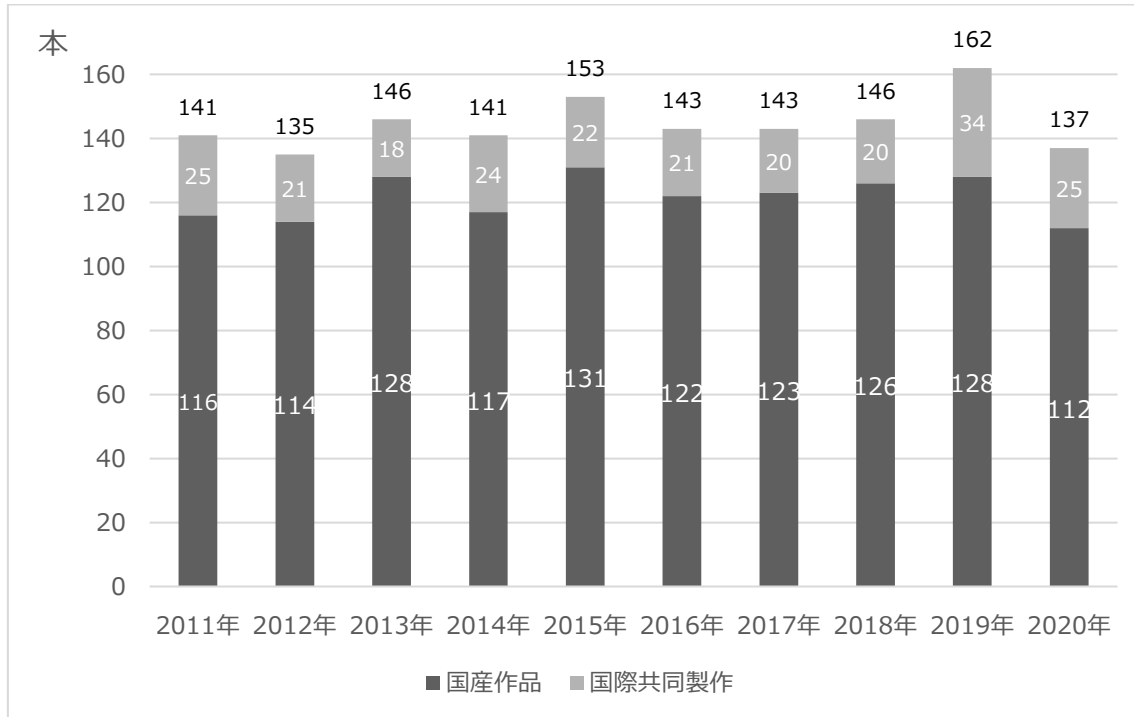
⁶ Canadian Media Producers Association (CMPA)作成「Profile 2019」を元に作成

<https://telefilm.ca/en/studies/profile-2019-economic-report-on-the-screen-based-media-production-industry-in-canada-2019> 四捨五入の関係上、元データで 100%に満たない年有り。

7. 映画製作本数（2011-2020）⁷

* 製作本数は 140 本前後を推移、国際共同製作の本数も近年は 20 本以上をキープしている。

図 カナダ国内の映画製作本数(グラフ)



⁷ カナダでは国産作品と国際共同製作作品は別の統計であり、便宜上合計値である。